# I 2021年度 事業概要

# 社員総会報告

2021 年度社員総会は、新型コロナウイルス感染症の感染状況等を勘案し、参加者及び関係者の健康・安全面を第一に考慮した結果、正会員の集合により開催してきた方法を変更して行った。事前に「議決権行使書」を含む社員総会関係資料一式を正会員へ送付し、その資料に基づき7月9日に「社員総会議事事項に関する説明会」をWeb開催し、審議事項・報告事項について説明と質疑を行った。その後、会長と理事・監事は7月31日の社員総会において「議決権行使書」の賛否を確認し審議事項について決定した。

開催日時: 2021年7月31日(土曜日)午前10時00分から午前11時00分

開催場所:東京都千代田区神田須田町1-5 翔和須田町ビル2階 法人事務所

出席社員数:総社員数594名、総社員の議決権数594個、出席社員数370名 (議決権行使書による)、

出席社員の議決権数370個

定款第 18 条により、正会員 594 名中、議決権行使書提出者 370 名をもって総会が成立することが報告された。定款第 17 条により、社員総会の議長は河口てる子会長とし、定款第 22 条により、議事録署名人は武田祐子理事と守田美奈子理事が指名された。

#### 審議事項

【第1号議案2020年度事業活動報告及び決算承認・監査報告に関する件】

第1号議案は370名の賛成を得て承認された。

【第2号議案 役員選任に関する件】

理事の齋藤ひろみ氏が、本社員総会の終結をもって辞任するため、改めて理事を選任する必要があり、2020年度役員候補者選挙の結果、短期大学枠の補欠理事候補者の白鳳短期大学の諸喜田美恵氏を後任として推挙することおよび任期は前任理事の残任期間である2021年7月31日から2022年7月の社員総会終結時までとすることの説明があった。

第2号議案は370名の賛成を得て原案通り諸喜田美恵氏が理事に選任された。

#### 報告事項

- 1) 2021 年度事業活動計画及び予算に関する件
  - (1) 重点事業について
  - (2) 2021 年度事業活動計画
  - (3) 2021 年度予算
- 2) 規程の整備に関する件
- 3) 事務局の移転について

# 2020 年度 一般社団法人日本私立看護系大学協会 決算書

(2020年4月1日~2021年3月31日)

1. 一般会計予算 〈収入〉\_\_\_ (単位;円)

		科	目		2020 年度予算	執行額	予算残	執行率	備考
	会			費	60,000,000	59,325,000	675,000	99%	会 費@ 300,000 × 198 校 入会金@ 200,000 × 3 校
ĺ	銀	行	利	息	1,000	570	430	57%	普通預金
ĺ	預	I	9	金	2,600,000	2,568,353	31,647	99%	源泉所得税、住民税、社会保険料
	雑	Ц	又	入	0	173,252	△ 173,252		前年度研究助成金の返還
	( 4	又入	小言	計 )	62,601,000	62,067,175	533,825	99%	
ĺ	前:	年 度	繰 越	金 金	49,130,314	49,130,314	0	100%	現金及び普通預金
Î		合	計		111 731 314	111 197 489	533.825	100%	

〈支出〉

〈支出〉						
科 目		2020 年度予算	執行額	予算残	執行率	備考
事業費		71,029,000	54,124,274	16,904,726	76%	
大学教育委員		4,794,000	2,044,366	2,749,634	43%	※新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う研修会開催方法の変更による削減
	員 会	2,818,000	623,882	2,194,118	22%	※新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う研修会開催方法の変更による削減
研究助成事		7,581,000	7,580,588	412	99%	
国際交流委員	会	1,309,000	579,860	729,140	44%	※新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う研修会開催方法の変更による削減
大学運営・経営委	員会	2,457,000	1,681,859	775,141	68%	※新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う旅費の削減
渉 外 委 員	会	300,000	15,275	284,725	5%	※新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う旅費の削減
広 報 委 員	会	4,650,000	3,449,738	1,200,262	74%	※ホームページ改修費用の削減
人件	費	8,400,000	8,110,334	289,666	97%	
消 耗 品	費	700,000	690,196	9,804	99%	
旅 費 交 通	費	4,500,000	767,840	3,732,160	17%	※新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う旅費の削減
通 信	費	420,000	404,977	15,023	96%	
印刷	費	2,500,000	2,302,677	197,323	92%	
賃 借	料	4,200,000	2,836,632	1,363,368	68%	※新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う社員総会開催方法の変更による削減
会 議	費	3,600,000	1,109,520	2,490,480	31%	※新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う旅費の削減
業務委託	費	2,800,000	2,321,770	478,230	83%	
新型コロナ感染症対	策費	20,000,000	19,604,760	395,240	98%	
管理費		13,500,000	11,475,506	2,024,494	85%	
人件	費	6,100,000	5,953,322	146,678	98%	
消 耗 品	費	700,000	695,336	4,664	99%	
光 熱 水	費	620,000	485,038	134,962	78%	
旅 費 交 通	費	600,000	89,788	510,212	15%	※新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う旅費の削減
通 信	費	500,000	491,536	8,464	98%	
印 刷	費	1,000,000	404,417	595,583	40%	※新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う理事会資料の経費削減
賃 借	料	2,700,000	2,377,964	322,036	88%	
会 議	費	200,000	41,989	158,011	21%	※新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う旅費の削減
業務委託	費	1,000,000	860,566	139,434	86%	
租 税 公	課	80,000	75,550	4,450	94%	
将来事業特別会計線	人金	1,000,000	1,000,000	0	100%	
維持管理特別会計線		0	0	0		
退職給付引当繰		551,000	551,000	0	100%	
預り	金	2,600,000	2,564,536	35,464	99%	
前期末未払		1,059,392	1,059,392	0	100%	
期 末 未 払	金	△ 1,060,000	△ 4,086,532	3,026,532	386%	
予 備	費	5,000,000	60,000	4,940,000	1%	※新型コロナウイルス感染症感染拡大による在宅ワーク経費(通信費)
(支出小言		93,679,392	66,748,176	26,931,216	71%	
次 年 度 繰 越	金金	18,051,922	44,449,313	△ 26,397,391	246%	
合 計		111,731,314	111,197,489	533,825	100%	

# 2. 特別会計

#### (1) 2020 年度 将来事業特別会計

	科	目		2020 年度予算	執行額	予算残	執行率	備考
前	年 度	繰 越	金	9,259,835	9,259,835	0	100%	
繰	,	入	金	1,000,000	1,000,000	0	100%	
利	息	収	益	0	80	△ 80		
	合	計		10,259,835	10,259,915	△ 80	100%	

#### (2) 2020 年度 維持管理特別会計

	科	目		2020 年度予算	執行額	予算残	執行率	備考
前	年 度	繰 越	金	10,031,336	10,031,336	0	100%	
繰	,	入	金	0	0	0		
利	息	収	益	16,000	15,668	332	98%	
	合	計		10.047.336	10.047.004	332	100%	

# 2021 年度 一般社団法人日本私立看護系大学協会予算書

(2021年4月1日~2022年3月31日)

1. 一般会計予算 〈収入〉 (単位;千円)

\1\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\				(十匹,111)
科目	2021 年度予算	2020 年度予算	差異	備   考
				会費@ 300,000 × 198 校
会費	59,400	60,000	△ 600	入会金@ 200,000 × 0 校
				新設校4校(学部)全て入会金免除(3学部は同一大学による学部新設、1学部は短期大学改組)
銀行利息	1	1	0	普通預金
預り金	2,800	2,600	200	源泉所得税、住民税、社会保険料
敷金還付金	2,148	0	2,148	全額還付
雑収入	5,000	0	5,000	事務所移転に伴う立ち退き料
(収入小計)	69,349	62,601	6,748	
前年度繰越金	44,449	49,131	△ 4,682	
合計	113,798	111,732	2,066	

〈支出〉

〈支出〉					
科目	2021 年度予算		差 異	使 途	増減の理由
事業費	57,057	71,029	△ 13,972		
大学教育委員会	757	4,794	△ 4,037		研修会、委員会を Web 開催し会場経費と旅費削減のため減額
研究活動委員会	1,148	2,818	△ 1,670		研修会、委員会を Web 開催し会場経費と旅費削減のため減額
研究助成事業	7,580	7,581	△1		委員会を Web 開催し旅費削減、看護学研究奨励賞 5 件(50 万円)増のため
国際交流委員会	703	1,309	△ 606		研修会、委員会を Web 開催し会場経費と旅費削減のため減額
大学運営・経営委員会	1,256	2,457	△ 1,201		研修会運営方法変更による業務委託費と旅費削減のため減額
涉外委員会	260	300	△ 40		研修会、委員会を Web 開催し旅費削減と通信費削減のため減額
広 報 委 員 会	603	4,650	△ 4,047		ホームページ改修完了の業務委託費削減のため減額
人 件 費	8,600	8,400	200	事務局員、総会人件費等	
消 耗 品 費	1,400	700	700		会長表彰副賞の変更のため増額
旅費交通費	2,500	4,500		理事会等旅費等	Web 開催の併用を想定し減額
通 信 費	750	420	330	振込手数料、切手等	資料等送付が増えたため増額
印 刷 費	2,500	2,500		会報、年次報告書印刷費等	
賃 借 料	4,200	4,200		事務所賃料等	社員総会用クリッカー料の減額、事務所賃料増額
会 議 費	2,000	3,600	△ 1,600	総会、理事会等	
業務委託費	2,800	2,800	0	動画配信サーバー保守料等	社員総会を Web 開催とし減額
新型コロナ感染症対策費	0	20,000	△ 20,000		
シミュレーション教育開発費	20,000	0	20,000		
管理費	21,410	13,500	7,910		
人 件 費	6,800	6,100	700	事務局人件費	
消 耗 品 費	3,500	700	2,800	什器、文具、会計ソフト等	新事務所什器等購入のため増額
光熱水費	620	620	0	事務所光熱水費	
旅費交通費	300	600	△ 300	選挙管理委員会旅費等	50 パーセント Web 開催を想定し減額
通 信 費	700	500	200	切手、郵送費、電話、振込手数料等	職員在宅ワーク用 Wi-Fi 利用のため増額
印刷費	600	1,000	△ 400	コピー機利用料等	会議資料等のデータ化のため削減
賃 借 料	3,200	2,700	500	事務所賃料、リース料等	事務所賃料の増額のため
会 議 費	100	200	△ 100	選挙管理委員会等	50 パーセント Web 開催を想定し減額
業務委託費	2,830	1,000	1,830	司法書士、公認会計士業務委託契約料等	引越し業務委託による増額
敷金	2,110	0	2,110		新事務所敷金 (資産計上)
保 険 料	550	0	550	火災保険等	新事務所の初年度家賃保証料と火災保険料
租税公課	100	80			登記(2回分)による収入印紙購入のため増額
将来事業特別会計繰入金	1,000	1,000	0		
維持管理特別会計繰入金	1,000	0	1,000		家賃増額に伴う繰り入れ
退職給付引当繰入金	583	551	32		
預 り 金	2,800	2,600	200	源泉所得税、住民税、社会保険料	
前期末未払金	4,086	1,060	3,026		
期末未払金	△ 1,060	△ 1,060	0		
予 備 費	5,000	5,000	0		
(支出小計)	91,876	93,680	△ 1,804		
次年度繰越金	21,922	18,052	3,870		
合 計	113,798	111,732	2,066		
			,		

# 2. 特別会計(1) 2021 年度将来事業特別会計

	(1) 2	-021 -13	スリハチェ	本111/1/					
		科	目		2021 年度予算	2020 年度予算	差	異	備考
	前	年 度	繰 越	金	10,259	9,259		1,000	
	繰		入	金	1,000	1,000		0	
ſ	利	息	収	益	0	0		0	
ſ		合	計		11 259	10.259		1.000	

#### (2) 2021 年度維持管理特別会計

	科	目		2021 年度予算	2020 年度予算	差	異	備   考
前	年 度	繰 越	金	10,047	10,031		16	
繰	,	入	金	1,000	0		1,000	新事務所家賃増額のための繰り入れ
利	息	収	益	16	16		0	
	合	計		11,063	10,047		1,016	

# 理事会報告

#### 第1回定例理事会

【日 時】2021年5月29日(土)12時30分~14時15分(Web会議)

#### 【審議事項】

1. 2021 年度社員総会について

2021年度社員総会は、昨年と同様に正会員の議決権行使と会長をはじめとする少人数の理事・監事の出席により7月31日(土)に開催することとした。また、社員総会に先立ち7月9日(金)に各大学3名の正会員を対象に議事事項に関する説明会をWeb開催し、会長及び担当理事・監事により審議事項、報告事項について説明することとなった。事務局は議決権行使書を含む社員総会関係資料一式を7月初旬に正会員へ送付することとなった。

2. 2020年度決算(案)について

長澤正志業務担当理事より、説明があり承認された。一般会計の事業費について、新型コロナウイルス感染症の影響により各委員会の執行率は低くなったが、新型コロナウイルス感染症対策費の執行が98%で事業費全体では76%、前年度比は1%減となった。管理費は85%の執行で前年度比は1%減であった。一般会計全体では71%の執行で前年度比3%減であり、次年度繰越金は44,449,313円となった。また、正味財産は前年度より約600万円程度減り62,947,935円であると説明された。

3. 2020 年度監事監査について

井部俊子監事より、5月21日に監査を行ったと報告があった。

- 4. 2021 年度事業活動計画(案) について
  - (1) 大学教育委員会

研修会①「新任教員向け研修会」は12月頃にWeb 開催し、研修会②「基礎看護学におけるシミュレーション教育」は10月頃にWeb 開催すると報告があった。

(2) 研究活動委員会

第1回研究セミナーは「リサーチクエスチョンから研究計画へ」をテーマに9月18日(土)13時から15時までで講師は坂下玲子先生(兵庫県立大学 看護学部 教授)。第2回研究セミナーは「看護研究におけるアクションリサーチの意義と研究プロセス」をテーマに2022年2月12日(土)場所はアルカディア市ヶ谷の予定で、開催方法は新型コロナウイルス感染の状況により変更の可能性があり、講師は筒井真優美先生(横浜市立大学医学部看護学科/大学院 特別契約教授/日本赤十字看護大学 名誉教授・客員教授)で開催すると報告があった。また、研究助成事業は、各助成の公募中であり審査選考委員会を7月11日(日)に開催すると報告があった。

(3) 国際交流委員会

研修会「看護学教育に SDGs をいかに取り入れるか (仮)」をテーマに 11 月 5 日 (金) 16 時から 18 時で講師は高橋幸子先生 (目白大学)、宮澤純子先生 (城西国際大学) 村瀬智子先生 (日本赤十字豊田看護大学) で開催すると報告があった。

(4) 大学運営·経営委員会

研修会は「大学における質保証」をテーマに10月25日(月)13時30分から開催すると報告があった。また、「看護系大学に関する実態調査」について調査項目のスリム化が課題となっている。実習課題や実習経費についての項目は不要ではないかという意見があり、この点に関して本協会理事に意見を求めた。「私立看護系大学は附属病院がない学校が多数あり、経費についての項目は交渉のためにも必要である。保健師課程の実習経費は全国社会福祉協議会の定めにより医療職も介護職も同じ額だが、在宅看護、訪問ステーション、助産は高く実態調査の結果は交渉する際の基礎データとなる。また、実習は病院にとって負担となるだけではなく、将来就職する看護師の潜在ニーズを把握する機会にもなるので、実習の要件を示し、エビデンスに基づいた実習費経費の基準を設けることができるとよい」との意見があった。

# (5) 涉外委員会

日本看護系大学協議会との合同基礎調査における協議事項の検討を大学運営・経営委員会と ともに進めること、その他関係諸団体との連携について報告があった。

#### (6) 広報委員会

会報と年報の発刊、および 2021 年度 4 月に刷新したホームページについては引き続き改善をしていくと報告があった。

(7) シミュレーション教育開発について

各会員校のリソースによって求めているものが異なり限界もあるので、各校が抱えている課題を踏まえ、シミュレーション教育導入の発展課題・レベルを上げることが必要であり、シミュレーション教育開発の先駆的活動をしている大学にお願いして、会員校の教員が活用できる、ビデオ教材を作成する案が出された。具体的な事業計画を立案するために会長、大学教育委員会を主体にプロジェクトチームを発足させることとなった。

5. 2021 年度予算(案) について

シミュレーション教育開発経費については、具体的な計画を作成し社員総会で説明することと なった。

6. 会員校の入会について

医療創生大学(国際看護学部看護学科)、東都大学(沼津ヒューマンケア学部看護学科)、福岡 国際医療福祉大学(看護学部看護学科)、松本看護大学(看護学部看護学科)4校の入会が承認 された。

#### 【報告事項】

1. 2020 年度内部監査報告

長澤正志業務担当理事より、2020年度内部監査報告書に基づき報告があった。

#### 第2回定例理事会

【日 時】2021年7月31日(土)11時30分~12時50分(Web会議)

#### 【審議事項】

1. 2021 年度研究助成事業採択者について

研究活動委員会委員長の秋元典子理事より、資料に基づき説明があり、看護学研究奨励賞 11 件、若手研究者研究助成 9 件、国際学会発表助成 3 件を採択することが承認された。今後、募集要項

に物品購入の助成金に対する割合を記載する必要があるなどの意見が出され、研究活動委員会に おいて規程や募集要項について検討することとなった。

#### 【報告事項】

- 1. 委員会活動報告について
  - (1) 大学教育委員会

片田範子理事より、「シミュレーション教材開発プロジェクト」について、東京医科大学の阿部幸恵先生を中心に発足したこと、シミュレーション教育開発プロジェクトメンバーについて報告された。また、今年度開催する2つの研修会についても適宜進捗しているとの報告があった。

(2) 研究活動委員会

秋元典子理事より、9月18日に開催する第1回研究セミナーについて報告があった。

(3) 国際交流委員会

堀内成子理事より、11月5日に開催する研修会「看護学教育にいかに SDGs を取り入れるか」 について報告があり、昨年度の反省からアンケート回答を促す工夫をするとの説明があった。

(4) 大学運営·経営委員会

春山早苗理事より、7月11日にJANPUと看護系大学に関する実態調査についての合同委員会を開催し、質問項目のスリム化とデータベース化について審議したとの報告があった。データベース化は、調査項目をたびたび改変し調査結果も各委員が編集しているため、時間的費用的に難しく、今年度実施する実態調査と活用状況のアンケートの結果を踏まえ、2022年度の実態調査項目を再度検討し、その後、数年間は調査項目を変えずにデータベース化を進めていくと報告された。また、データを研究に使用するときのルール作りも検討することが報告された。10月25日に開催する研修会の「大学における質保証」について、大学基準協会と大学の事例発表を予定していると報告された。

# (5) 涉外委員会

山本あい子理事より、日本看護協会と日本看護連盟を通じた自民党厚生労働部会看護問題小委員会への要望書の提出について説明があった。この件について、理事会での審議を基に委員会で検討し要望書を提出することとなった。

(6) 広報委員会

守田美奈子理事より、会報 46 号の記事構成について報告された。ホームページの運用状況について4月からの3か月間のホームページ運用状況レポートを基に報告された。ページビュー数について、4月より5・6月と増えている。一定数の安定したアクセスがあり、会員校情報が思いのほか閲覧されており、研修会動画の配信ページは閲覧数が多いにもかかわらず滞在時間が少ないので、今後内容の拡充が課題であると説明があった。

#### 第3回定例理事会

【日 時】2021年11月8日(月)10時00分~12時20分(Web会議)

#### 【審議事項】

1. 選挙について

選挙スケジュールと 2022 年度の理事定数を確認した。また、選挙管理委員の委嘱について、

執行部理事で関東地方の会員校の中から次年度も正会員になる可能性が高い人に打診し、承諾が得られれば委嘱することの承認を得た。

- 2. 規程等の改正について
  - (1) 文書取扱い規程、経理規程の改正について審議し承認された。
  - (2) 専任職員就業規則・身元保証書様式の変更について審議し承認された。
- 3. 2022 年度研究助成事業について
  - (1) 2022 年度募集要項の改正について
    - ・看護学研究奨励賞、国際学会発表助成の応募書類の押印を必要としないことが承認された。
    - ・看護学研究奨励賞の要件より「紀要」を除外することが承認された。
    - ・若手研究者研究助成の研究経費申請上の注意事項に、「申請する研究経費は50万円を超えないでください。」と記載すること、選考基準項目を①研究目的の妥当性(看護学への貢献、研究の意義)、②研究方法の妥当性、③独創性、④研究計画実現の可能性、⑤研究経費の妥当性、⑥準備状況の6項目に変更することが承認された。
  - (2) 研究助成事業規程施行細則の改正 看護学研究奨励賞の要件より「紀要」を除外することが承認された。
  - (3) 各書式の変更

2022 年度募集要項変更に伴い、若手研究者研究助成研究計画書、看護学研究奨励賞・国際 学会発表助成推薦書の書式変更は承認された。

#### 【報告事項】

- 1. 事業活動報告及び会計内訳について
  - (1) 大学教育委員会

片田範子理事より報告があった。10月3日に行った研修会は昨年度より引き続き、シミュレーション教育を新型コロナウイルス感染症の収束後にも導入できるシステム構築に向けて開催した。講師の阿部幸恵先生からは、シミュレーション教育をあらゆる形で充実させて日常的なものにしていくことを、藤野ユリ子先生からは多様な看護実践につなぐシミュレーション教育の実践というテーマで自学の独自のシステムの紹介があった。午後からは、昨年取り上げていなかった在宅・小児看護学の分野の実践を紹介した。当日参加者は294名で、10月31日時点での動画視聴数は423回である。また、昨年度実施したCOVID-19に伴う看護学実習への影響調査報告書をホームページに掲載している。「シミュレーション教育教材開発プロジェクト」については、東京医科大学の阿部幸恵先生をプロジェクト長として、精力的に活動していると報告があった。また、2022年1月29日の新任教員のための研修会「新人とともに成長する教員組織」について講演テーマが「禅に学ぶ人の育て方」に決定し、進捗しているとの報告があった。

#### (2) 研究活動委員会

武田祐子理事より報告があった。2021年度の研究助成事業について、また9月18日に開催した第1回研究セミナーについて報告があった。10月31日時点で動画視聴数218回であった。

(3) 国際交流委員会

堀内成子理事より報告があった。11月5日に開催した研修会「看護学教育にいかに SDGs

を取り入れるか」について、目白大学の髙橋先生からはすべての看護の授業科目にどう SDGs を関連付けていくか、城西国際大学の宮澤先生からは1・2年生の必修科目に SDGs を年間通じ展開されている事例の紹介があり、日本赤十字豊田看護大学の村瀬先生からは未来からケア・共創・看護学をとらえていく教育の理論を講演され、実り多い研修会となったと説明があった。

#### (4) 大学運営·経営委員会

長澤正志理事より報告があった。10月25日に開催した研修会「大学における質保証」について、当日参加者は175名であり、一大学で多くの方が参加された。大学基準協会の制度についての詳細な説明と東京理科大学の様々な工夫が紹介され有用であったと報告された。

日本看護系大学協議会(JANPU)と協働で行っている「看護系大学に関する実態調査」は JANPU からの要請により、教員数について今年度は調査対象年と調査当該年度のデータを 2 年分集計することとなったと説明があった。

#### (5) 渉外委員会

河口てる子会長より報告があった。山本あい子理事の APN グランドデザイン委員会への参画と、日本看護協会と日本看護連盟を通じた自民党厚生労働部会看護問題小委員会への要望書を提出したことについて報告があった。

#### (6) 広報委員会

守田美奈子理事より報告があった。会報 46 号を発行したことの報告があった。ホームページについては7月からの3か月間の運用状況レポートを基に、研修会や動画配信の導線に工夫を行い、引き続き改善していくと説明があった。

#### 2. 中期決算について

長澤正志理事より報告があった。特別会計について将来事業特別会計は例年とおり一般会計より 100万円繰入れ、維持管理特別会計は事務局移転に伴い一般会計より 100万円繰入れたと説明があった。

# 3. シミュレーション教育教材開発プロジェクトについて

片田範子理事より報告があった。2022年3月に成果物を会員校への発送に向け、精力的に進めている。撮影時には必要な感染対策を行い、学生個人が特定できないような配慮をしている。また、冊子と DVD の著作権を協会で持ち、各領域の教材作成者と著作権譲渡に関する契約を結ぶ予定であることが報告された。

#### 4. 会長表彰の副賞について

はさみを受け取った学生の反応では、「各団体から表彰があるが、学生は図書カードやクオカードのほうが喜ばれているよう。」「卒業式に記念撮影をしている様子もあり、表彰されることが重要である。」「手元に残るものがよいのではないか。」との意見があった。「プロフェッショナルが使用する物は高価でしっかりした物だと卒業生へ意識付けするために、もう少し高価なものに変更してはどうか。」との意見が出され検討することとなった。

#### 第4回定例理事会

【日 時】2022年3月30日(水)16時00分~18時10分(Web会議)

#### 【報告事項】

- 1. 2021 年度事業活動報告と予算執行状況について
  - (1) 大学教育委員会

中嶋恵美子理事より開催した2つの研修会について詳細な報告があった。シミュレーション 教育教材開発プロジェクトは阿部幸恵先生のリーダーシップのもと、順調に進行し成果物が年 度内に会員校に届く予定であると報告があった。

(2) 研究活動委員会

秋元典子理事より開催した2回の研究セミナーと研究助成事業について詳細な報告があった。また継続審議となる2023年度研究助成事業について委員会で検討した結果についても報告があった。

(3) 国際交流委員会

堀内成子理事、田村由美理事が欠席のため、提出された資料を確認した。

(4) 大学運営·経営委員会

春山早苗理事より「大学における質保証」の研修会について、内部質保証の方針と実施体制、 有効性、運用等の工夫などについての講演で大変好評であったと報告があった。また「看護系 大学に関する実態調査の活用に関する調査」、「教員数に関する調査」、「看護系大学に関する実 態調査・看護系短期大学に関する実態調査」についても報告があった。

(5) 渉外委員会

河口てる子会長より Nursing Now キャンペーン、JANPU の高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会への参画、2021 年度自民党厚生労働部会看護問題小委員会への要望書の提出、各関係諸団体への寄稿について報告があった。また、JANPU と看護学校協議会と協働で調査した「令和3年度看護師国家試験についての受験状況調査」の結果報告があった。

(6) 広報委員会

守田美奈子理事より会報第45・46号及び2020年度年次報告書の発行と、ホームページ改修について報告があった。

- 2. 2021 年度一般社団法人日本私立看護系大学協会決算について 長澤正志理事より最終的には75~78%の執行率になる予定であると報告があった。
- 3. 若手研究者研究助成の研究期間延長について

秋元典子理事より変更届け出のあった方の研究期間延長の理由はコロナ禍により研究計画とおり研究が進めていないためであるため、延長を認めたと報告があった。

4. 会長表彰について

河口てる子会長より 2021 年度会員校のうち完成年度を迎えている 186 校に推薦依頼文を送付し 176 校より推薦を受け、賞状と副賞を送付したと報告があった。

#### 【審議事項】

1. 2022 年度重点事業について

河口てる子会長より説明があり継続審議することとなった。

2. 2022 年度事業活動計画について

島袋香子副会長より大学教育委員会と国際交流委員会へ、研修会の開催日を11月から1月の間で調整するよう依頼があった。

# (1) 大学教育委員会

中嶋恵美子理事より8月に新任教員向けの研修会と、10月以降にシミュレーション教育教材を活用した研修会を予定していると説明があった。

#### (2) 研究活動委員会

秋元典子理事より研究助成事業について4月1日より応募を開始し、選考委員会は7月にWebで開催する予定であると説明があった。また、第1回研究セミナーは9月17日に第2回研究セミナーは2023年2月25日にWebで開催し、それぞれ同日より若手研究者研究助成採択者の研究成果報告を3日間行うと説明があった。

### (3) 国際交流委員会

堀内成子理事、田村由美理事が欠席のため、提出された資料を確認した。

(4) 大学運営·経営委員会

春山早苗理事より現在検討している研修会の講師は、協会の講師謝金の規定内では依頼ができないと説明があった。余人をもって代えがたいという理由が示されており、タイムリーな講演内容で会員校にとっても有意義であるので謝金を調整し依頼することとなった。また理事会において事業活動会計取扱い規程の謝金について検討することとなった。

(5) 渉外委員会

河口てる子会長より今年度の事業を引き続き実施し関係諸団体と連携していくと説明があった。

(6) 広報委員会

守田美奈子理事より会報第47・48号発行と2021年度年次報告書を発刊し、研修会動画配信ページを改修する予定であると説明があった。

3. 2022 年度一般社団法人日本私立看護系大学協会予算について

長澤正志理事より説明があった。井部俊子監事よりコロナ禍が長期化しており、予算配分について抜本的に検討する必要があると意見が出された。

4. 2022 年度研究助成事業選考委員について

秋元典子理事より説明があり承認された。

5. 2022 年度役員候補者選出選挙について

河口てる子会長より選挙管理委員会を発足したと報告があった。また、立会人の選出について 4月14日までに登録される2022年度正会員の中から5月21日に事務局で行われる開票に立ち 会うことのできる方を執行部理事で検討し委嘱したいとの説明があり承認された。

6. 東海大学医療技術短期大学の閉校による退会について

三国久美理事より説明があり承認された。

7. 2022 年社員総会の開催方法について

河口てる子会長より対面と Web によるハイブリットの開催を検討したが、議決権の取り扱いなど解決しがたい問題があるため、昨年度と同じ方法で開催したいと説明があり、2022 年度社員総会は、正会員への Web による事前説明を経て、理事が Web 出席により議決権を確認する方法で開催することとなった。日程については、事前説明会は7月8日に開催し、社員総会は7月29日もしくは30日で調整することとなった。

# 会長表彰について

完成年度を迎えている会員校より、各校 1 名の推薦を受け、優れた業績をおさめた 178 名の卒業生へ、表彰状と記念品(ナースハサミ)を贈呈した(対象校 186 校のうち 178 校より推薦があった 95.7%)。







# Ⅱ 2021年度 事業活動報告

# 1. 大学教育委員会

#### 1. 趣旨

- ①教育内容(カリキュラム)、方法、評価の調査研究
- ②教員組織、教員の質・能力向上、教育能力・施設設備の調査研究
- ③教育に関するセミナー、ワークショップ等の実施
- ④上記①~③に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

#### 2. 担当理事および委員(○:委員長)

○片田 範子 (関西医科大学)

佐藤 みつ子 (了徳寺大学)

中嶋 恵美子(福岡大学)

波川 京子 (川崎医療福祉大学)

#### 3. 2021 年度事業活動報告

1) 研修会の開催

〈研修会I〉シミュレーション教育研修会

―看護の将来を見据えたシミュレーション教育の展望―

研修目的:アクティブな学びの看護教育手法としてのシミュレーション教育を学ぶ

開催日時:2021年10月3日(日)10:00~15:30

開催方法: Zoom ウェビナーによるライブ配信及び後日動画配信

当日参加者:294人

動画配信期間: 2021年10月11日~2022年1月11日

視聴回数:814回 【午前の部:講演】

講演1:「カリキュラムを俯瞰してのシミュレーション教育の導入

~ハードからソフトの充実に向けた全領域での取り組み~」

講師:阿部 幸恵 先生(東京医科大学 医学部看護学科 学科長・教授)

講演概要:今般のコロナ感染症拡大により、臨地実習で学ぶことに制限が生じ、臨地実習での学生の学びを代替する必要に迫られた。代替実習で臨地実習の目標を達成するために、どのような方法を選ぶか教員にデザインする力が求められる。カリキュラムの目指すディプロマ・ポリシー一つ一つに到達するために、各科目、各領域は、どのような教育手法を用いるのか検討しなければならない。その例を東京医科大学のディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、カリキュラムツリーを示し、アクティブラーニングを主軸とした教育方法の実践について説明された。コロナ禍を経て、①従来型の教員主導の教育・臨地実習でのこれまでの教育の在り方に転換を求められた。②学生が自分で自主的・自律的に学ぶには、教員はどのような力を備えていなければならないかを考える。③シミュレーション教育は1つの手法で、その他、アクティブラーニングの様々な手法を身につけなければならないなどを考えさせら

れた。したがってこれからのシミュレーション教育は、何をそろえるかというハード面ではなく、教員の教育スキル・シナリオの充実・シミュレーションと臨地での学びをつなぐ指導など、全領域での対話を通してのソフト面の充実が求められる。

講演2:「多様な看護実践の場につなぐシミュレーション教育の実践」

講師:藤野 ユリ子 先生(福岡女学院看護大学 看護学部看護学科 教授)

講演概要:多様な実践の場で活動する看護職に求められる教育として、シミュレーション教育は看護基礎教育と臨地の看護職とをつなぐ力になり得る。シミュレーション教育導入に向けた組織づくりを福岡女学院看護大学のシミュレーション教育センターの運営組織、構成委員会の各役割を例に紹介された。続けて、同大学のカリキュラムにおけるシミュレーション教育の位置づけ、学年進行におけるシミュレーション教育の活用をもとに、多様な場につなぐシミュレーション教育の実践が紹介された。シミュレーション導入後の学生の学び方の変化として、①実践方法を学生同士で考える②体験(失敗)から考える・気づく③現場をイメージする/疑似体験する④学ぶ楽しさを感じる/達成感が高いなどがあった。アフターコロナの看護教育では、多様な場で働く看護職育成のためにコロナ禍の教育の何を残し、何を戻すのか検討が必要であり、授業や実習終了時に、卒業時にどのような学生に成長して欲しいのかゴールの明確化が重要である。

# 【午後の部:事例紹介】

事例紹介1:在宅看護学「シミュレーション教育の一例【訪問時の面接技術】演習」

講師:酒井 康江 先生(福岡女学院看護大学 看護学部看護学科 教授)

報告概要:シミュレーション教育の実践例として演習の目的・目標と関連させてシミュレーション教育での展開方法を具体的に説明された。シナリオデザインシートやアウトラインシート、ホワイトボードの具体的活用、役割シート、シミュレーションルームやディブリーフィングルーム設定などを示し、シミュレーション教育における教員のデザインする力を具体的に例示された。

事例紹介2:小児看護学「小児看護領域における赤ちゃん先生導入」

講師:宮城 由美子 先生(福岡大学 医学部看護学科)

報告概要:赤ちゃん先生の導入で、学生が実際の乳幼児の在り様を体験し、子どもと母親との 関わりを通して現実を実感でき、主体的な学習に発展させることができる。小児看 護学の演習目標との関連で、赤ちゃん先生の実施方法と今後の課題について具体的 に説明された。 (中嶋恵美子)



〈研修会Ⅱ〉新任教員向けの研修会「新人とともに成長する教員組織」

研修目的:看護基礎教育における新任教員の教育活動の現状から導き出される教員としての人間

性、看護教員としてのあり方について討議し、教員組織への順応できることを目指す

開催日時: 2022年1月29日(土)10:00~15:30

開催方法:Zoom ウェビナーによるライブ配信及び後日動画配信

当日参加者:講演70人、グループワーク32人

動画配信期間:2022年2月9日~5月9日

視聴回数:484回

講演「禅に学ぶ人の育て方」

講師:松山 大耕 氏(妙心寺退蔵院 副住職)

【午前の部:講演】

講演概要:禅の人の育て方「(いわれたことはしないので)ロールモデルをみせること」「こころの目で観ること」「瞬時に動くこと」「働きが大事」「わざと教えない」は、看護基礎教育にも大学組織の活性化にも役立つことと思いました。最後に「社会に出た後も尊敬できる先生の元で働くことは人生の宝になる。心の支えになる先生を見つけてほしい。」というお言葉があり、まさしく心に響く講演であった。

臨済宗中興の祖と言われている江戸時代中期の白隠禅師は、長野県飯山の正受老人の元で修行し、日本で最初に「健康」という言葉を使った。30歳でうつ病と肺病に罹患した際、京都北白川の白幽子仙人から呼吸法を学びうつ病、肺病を克服した。江戸時代の医学書において心身ともに健康であることの必要性を説いた名僧である。

仏教の中で大事にしなければならない3つの学の要素は「聞思修」。聞とは教えや歴史を学ぶ座学。思とは自分で考えること。修とは実践である。禅の修行はこの逆の順番で学ぶ「修思聞」。とりあえずやってみて、やっていることの意味を考え、修行が終わってセオリーを学ぶ。僧が修行で身に着けた無駄のない所作は内面を輝かせ人を引き付け、信頼される。大学教育にも通じる禅の人の育て方を以下5点に示す。

- 1. 人は言われたことよりも、見て納得したことを優先して行う。
- 2.「観る」学生のことをちゃんと見ている姿勢を示し、伝えることは学生のモチベーションをあげる。
- 3.「瞬時に動く」すぐに動くことは人の心を捕まえる。
- 4.「能力でなく働きが大事」能力があるかはどうでもよく「できる」と「やる」は別。 「やる」を重視する。
- 5.「わざと教えない」ただ厳しくするだけではなく、ちゃんとした方向に向かって修行しているかを確認し、チャンスと時間を与え人間の能力を引き出すのが禅の教育。



# 【午後の部:グループワーク】

テーマ「上司・同僚に対して望むこと」「自分のめざす組織人」について活発に意見交換、情報 共有がなされた。(波川京子)

#### 2) 委員会の開催

○第1回大学教育委員会

開催日:2021年6月3日(木)17:40~18:30

開催方法: Zoom を用いた Web 会議

出席者:片田範子、佐藤みつ子、中嶋恵美子、波川京子(五十音順 敬称略)

議題:2021年度事業計画について

○第2回大学教育委員会

開催日:2021年7月29日(木)16:00~17:15

開催方法: Zoom を用いた Web 会議

出席者:阿部幸恵、片田範子、佐藤みつ子、中嶋恵美子、波川京子(五十音順 敬称略)

議題:2021年度特別事業「シミュレーション教育教材開発プロジェクト」と研修会について

○第3回大学教育委員会

開催日:2022年1月17日(月)16:00~17:00

開催方法: Zoom を用いた Web 会議

出席者:片田範子、佐藤みつ子、中嶋恵美子、波川京子(五十音順 敬称略)

議題:1月29日の研修会について

2022 年度事業計画について

○第4回大学教育委員会

開催日:2022年1月29日(土)15:30~15:50

開催方法: Zoom を用いた Web 会議

出席者:片田範子、佐藤みつ子、中嶋恵美子、波川京子(五十音順 敬称略)

議題:2022年度事業計画について

3) 2020 年度 COVID-19 に伴う看護学実習への影響調査

2020年10月に日本看護系大学協議会と協働で行った調査の結果をホームページに掲載した。

### 4. 今後の課題

看護学教育を取り巻く社会の変化が激しい中、長期的な事業活動は具体的な計画が立てにくい状況にある。そのため事業活動計画を進めながら、あわせて情報収集し、変化を踏まえて長期計画へと発展させていきたい。本委員会の担当する事業である、大学における教育、教員の質の向上に関するものは多岐にわたり、対象とする教員の職位も新任者から管理者に至り、それぞれの対象者のニーズも多様である。今後本協会の会員校である私学の増加の継続を踏まえ、会員校のニーズを把握して事業を企画する必要がある。看護学教育の動向を見つつ、本委員会の次年度の事業活動計画を策定する。

#### 一般社団法人日本私立看護系大学協会

#### 大学教育委員会「看護の将来を見据えたシミュレーション教育の展望|アンケート結果

当日参加者: 294 名、動画視聴回数: 814 回 アンケート回答者: 179 名

Zoom を用いたライブ配信

開催日:2021.10.03(土)

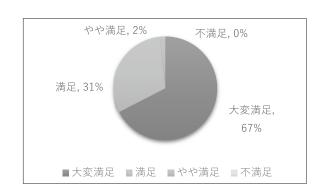
動画配信期間:10月11日~2022年1月11日

# 講演「カリキュラムを俯瞰してのシミュレーション教育の導入 ~ハードからソフトの充実に向けた全領域での取り組み~」の内容について

講師:阿部 幸恵 先生(東京医科大学医学部看護学科 学科長・教授)

#### 1) 内容について

	人数	割合
大変満足	118人	67%
満足	54 人	31%
やや満足	3 人	2%
不満足	0人	0%
合計	175 人	100%



- ・シミュレーションのデブリーフィングを充実させるために事前学習から徹底して学ばせるように 整備していくことが大事であると学びました。
- ・初学者なのでとても勉強になりました。目的や目標を明確にすることの大切さを改めて学びました。 た。
- ・先牛方の実際の取り組み場面を聞かせていただき分かりやすかったです。
- ・代替実習で学生全員が同じ紙上事例を使用していることに関する阿部先生のお考えを伺い、納得できました。
- ・最新のシミュレーション教育情報、アクティブラーニングを教授頂き、これらを構造的に行うことでより一層効果があることがわかりました。学生間で学び合い、学生自身で自己研鑽につなげる学習(デブリーフィング時)がとても重要ですね。今後、授業案等に活かしていきたいと思います。
- ・看護学教育におけるシミュレーション教育の位置づけが理解できました。目先の手法のみではなく全体論的な視点が必要と再認識できました。
- ・阿部先生のご講義でシミュレーション教育の具体的な実施方法がとてもよくわかった。
- ・シミュレーション教育を臨床判断能力の育成につなげていく方法が見えた気がした。
- ・シミュレーション教育の変遷が分かり、技術の進歩だけでなくどのように社会に求められてきた のか大変勉強になりました。
- ・シミュレーション研修は DP や教育目標に沿って検討する必要があること、またアクティブラーニングについても貴重な学びを得られました。今後の指針としての成果物の共有がされるとのことでしたので、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。
- ・コロナ禍における遠隔実習でのシミュレーションの活用など、今、困っていることへの対応を考 えられた。

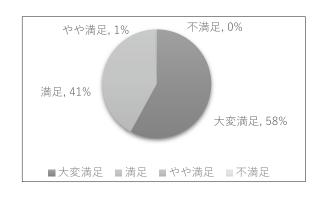
- ・シミュレーション教育の歴史からポイントまでとても参考になりました。
- ・看護学科内全体で取り組めることが大切だと思いました。
- ・シミュレーション教育の歴史を聞いて感動いたしました。何事も、それらが出来てきて来た歴史 (プロセス)を知ることは大切だと感じました。
- ・目標をどこに定めるか、本質的な問いをどこに置くかを再認識しました。
- ・シミュレーション教育教材開発プロジェクトの成果物を拝見するのも大変楽しみですし、ぜひ活 用させていただけたらと思っております。
- ・カリキュラムから位置づけられ、根拠がよくわかりました。
- ・考え方の整理ができた。
- ・シミュレーション教員の基本的な考え方などを大変分かりやすく教えていただきました。
- ・シミュレーション教育がどのようにして看護に位置づけられたか、歴史的背景を知ることができた。また、どのように取り組んでいけばよいのか、講演を聞く中で、いろいろと自分なりのイメージを持つことができた。
- ・実践を踏まえているため、とても参考になりました。
- ・シミュレーション教育の中での、振り返りの大切さを再認識しました。
- ・高額なシミュレーターがなくても、発想や教員側がきちんと組み立てられるのであれば良い、と のお話は身につまされました。自己研鑽をどの様に積むのか、ということを改めて実感しました。
- ・シミュレーション教育の変遷から、ソフト面で重要なことなどよくわかりました。今後に向けて 参考になる内容でした。
- ・目標から方法を選択していくことなど、基本に戻って行うことの重要性を改めて認識しました。 看護学部全体での話し合いのもと、目指していけるといいと思いました。また、臨床判断を成長 させるようなカリキュラムについて、もっと知りたいと思いました。
- ・具体的に実際の演習の組み方も勉強に大変なりました。外部講師を入れて(赤ちゃん先生や訪問看護師アドバイザー等)行うことはよりリアルに考えられてとてもいいなと思いました。実際は、大学との交渉や、資金をどこから捻出するのか等課題はありますが、念頭に置きながら、これから演習をやれればと思っています。
- ・阿部先生のご講演から始まり、教員側が何を看護基礎教育で学ばせたいのか、また現任教育には何を引きつぎたいのかしっかりと理念を持って教育に臨むことが大事だということを痛感させられました。そのうえで教材研究をその都度行っていくことの重要性を感じました。
- ・シミュレーションについて具体的な授業方法もわかりましたし、考え方や授業構成についても知ることができました。方法が進化していくところなので、今後も着目していければと思います。 情報提供いただければありがたいです。
- ・シミュレーションを行う上での目標設定の重要性、学生自身が振り返りを行う空間設定の重要性 を学ぶことができました。また、工夫を行うことで、今ある教材を活かすことができることにつ いても学ぶことができました。
- $\cdot 1$  領域  $\cdot 1$  科目  $\cdot -$  地点など狭域での導入を目指すだけではなく、大学内で大きな枠組みを作り計画的な導入を進める重要性が分かりました。
- ・教員経験が少ない中で大変勉強になりました。また、学生の学びを活きたものにするための工夫はたくさんできるということ、教員の思考を柔軟にし、学び続けることの大切さを学ばせていただきました。明日からの活力をいただきました。ありがとうございました。
- ・学習者のためのシミュレーション企画の視点を一貫してることの大事さを学べました。
- ・シミュレーション教育がアクティブラーニングの一部であることが大切であると分かった。動的 な部分にとらわれるのではなく、思考させることが十分に深い学びに繋がるということが印象的 でした。また、先生のシミュレーション教育への情熱を感じました。教員も楽しんで取り組むこ とが学生にも伝わるのではないかと思いました。

- ・学生が事前に調べを行いそれに基づいて、問題を解かせるところまでが事前学習であることに納得しました。またそこまで必要であるとも感じております。
- ・シミュレーション教育を実施する上での明確な目標設定の必要性や、デブリーフィングの必要性 など、学生が自律的に学ぶための設定の重要性を認識させていただきました。
- ・貴重なお話ばかりで大変勉強になり、参加してよかったと思いました。先生のお話がとてもきき やすく理解できました。
- ・質疑の中で、1つの事例でも十分に学ぶことができるというお話があったと思うのですが、私自身もそう考えているので、自分の考えに自信がもてました。教授の方針で色んな事例で看護過程の展開やオンライン実習を行っているのですが、効果や手応えを感じていません。どうやったら学生の知識やアセスメント力が身につくのか考えて授業設計していきたいと思います。
- ・シミュレーション教育・教材開発の歴史について知り、より関心が高まりました。
- ・まさに、今、必要な教育手法がテーマであったため、興味を持って受講させて頂きました。
- ・いつどこでご講演を聞かせていただいても、本当にわかりやすく、そして楽しく学ばせていただいております。特に今日は基礎から、そして最新のシミュレーション教育の情報に至るまでお聞きでき、参加してよかったと思いました。プレブリーフィングについて今一度詳しく知りたく、きちんと整理したいと思っていますが、なかなか参考になる文献が見当たらず、困っています。
- ・領域を超えての取り組みが参考になりました。
- ・阿部先生のご講演にある中の「ONE OF THEM」に示される、「カリキュラムの目指すディプロマポリシーに到達するために、各科目、各領域は、どのような教育手法を用いるか重要」とのご説明から、学ぶ学生を中心とした各専門領域間の連携と協働の在り方について、学部全体で具体的にどのように取り組まれたか、について教示いただければと思います。
- ・適官画面共有もあり理解しやすかったです。
- ・チームで行い、現場と大学(教育機関)との連携の在り方など具体的で興味深く他領域のシミュレーション教育の実際など新しい知識も得られて大変有意義なご講演でした。コメントがまた学びになりました。
- ・講演を诵しての質問に対する返答がとても分かりやすくて学習になりました。
- ・アクティブラーニングに関心を持ちました。自分でも導入できるよう学習してみたいと思います。
- ・コロナ下において、実習内容の再構成するにあたりシミュレーション教育の位置づけを明確にしておく必要があることを感じました。
- ・経験の少ない学生にどれだけ安全な形で体験できるかが学びにつながりますので、シミュレーション教育は必要です。

# 2. 講演「多様な看護実践の場へつなぐシミュレーション教育の実践」の内容について 講師:藤野 ユリ子 先生(福岡女学院看護大学看護学部看護学科 教授)

#### 1) 内容について

	人数	割合
大変満足	102 人	58%
満足	73 人	41%
やや満足	1人	1%
不満足	0人	0%
合計	176 人	100%



- ・ミッションタウンのご紹介は大変参考になった。ミッションタウンについて、もう少し詳しく説明してほしかった。
- ・参加時間が僅かでしたが、非常に頷ける内容で良い学びとなりました。配信されたものを確認し たいと思います。
- ・藤野先生のミッションタウンの紹介が具体的でよく理解できました。在宅看護から見る地域包括 システム構築に向けて次のカリキュラムでの内容が見えました。
- ・シミュレーションのハード面が素晴らしいです。ミッションタウンプログラムは今後の参考になりました。
- ・具体的な内容や今後の取り組みをお話いただき、今後どのように講義設定をしていけばよいのか 示唆を得ることができました。臨地実習施設との連携を図り、より効果的なシミュレーション教 育を進めていきたいと思います。今後作成される予定の評価票等も活用させていただきたいと思 います。
- ・全学的な取り組みの方法を伺うことができ、大変勉強になりました。
- ・領域を超えての取り組み、これから重要となりますね。学部全体での方向性を一致させるために も、こうした委員会の立ち上げから第一歩になると思いました。学生の実践評価には、臨床の指 導者との協働もとても大切であると改めて痛感し、今後の課題にしたいと考えます。
- ・シミュレーション教育をどのように活用するか?色々な試みを知ることができ、理解が深まりました。同時に、それぞれの大学(教員)がしっかりとしたポリシーを持つ必要があると考えさせられました。
- ・教育目標の達成では、実習については、目的の下にある目標について、できたか、できなかった かを丁寧に見ていくことのヒントを得ることができた。
- ・大学として地域への貢献の一つでもあろうかと感じました。
- ・組織全体として、シミュレーション教育を検討していくことが必要なことがわかりました。シミュレーションセンター、ミッションタウンなどに関しても大変興味深く聞かせていただきました。 今後の参考にさせていただきます。
- ・全看護領域の教員や学生、臨床指導者も参加して、よりよいシミュレーション教育の構築に取り 組んでいらっしゃることに感銘を受けました。本学でも取り組みたいと思うヒントがたくさんあ りました。
- ・活用できる資源をいかにアイデアを持って活用するかだと思いました。
- ・それぞれの環境の中で、様々な取り組みをされていることを知り、今後の授業構成を考える上で 大変参考になりました。
- ・私達が日常していることですが、論理的に位置づけをしっかりされていることを学びました。
- ・大学としての取組みとしてされているのは素晴らしい。
- ・領域を超えた共有事例の活用や、ミッションタウンなどは学生にとって学習を積み上げやすい教 材になると思いました。本学でも実現できると良いと思いました。
- ・センターを持っていることと、それを有効活用した教育がなされていることに大変うらやましく 思った。本学は医学部があり、そこにシミュレーションセンターがあり、もっと有効活用できる ように考えていきたい。
- ・試行錯誤の成果が見える講演でした。
- ・ミッションタウンを活用する教育方法に関心を持ちました。予算が必要なことなので、同じよう なことはできませんが、応用することができれば面白いと思いました。
- ・領域を横断して教育をどの様に行うのか、どこを向いて教育するのか、本当にその通りだと思いました。
- ・組織としての取り組みについてとても参考になります。進歩続けているミッションタウンの構想

に感銘します。

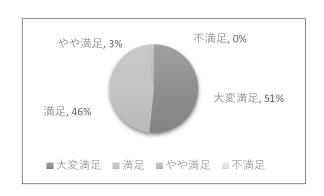
- ・全学で同じ方向性を向いての教育に活用できている方法だと思いました。学生は、患者さんが病院に入院していると生活者としての視点を忘れがちです。地域社会に生活している患者さんなんだ、と考えを戻せるシステムだと思いました。開発費用や維持費などの面も何かの機会に教えていただけるとありがたいと思いました。
- ·Web 上のシュミレーションシステムについてとても興味深く、近未来を見たように思いました。
- ・他科目との共同体制が羨ましく思いました。少しでも先生方に近づけられるといいなと思っています。
- ・領域を超えて教育を行うことについて、ぼんやり必要性を感じていましたが、今日の講義で、学生のレディネスに合わせて領域が協働することの重要性を学ぶことができました。
- ・大学内で領域の垣根を越えて、教育の一貫性を持つ環境を整える必要性を学ばせていただきました。また、仮想シティのお話は、聞いていてワクワクいたしました。
- ・「つなぐ」の意味として、4年間の学修をつなぐ、学内と臨地をつなぐという様々な意味を持たせる大切さを学べました。
- ・ミッションタウンの取り組みが素晴らしいと思いました。そして、他領域と共通したモデルを経 年的に使用することで、事例にも愛着を持つことができ、学生へのやる気にも繋がるのではない かと思いました。他領域との会議を繰り返し行われ、各領域との横のつながりを持てるようにな ると良いと思いました。
- · After コロナの看護教育の中で、「何を残し何をもどすのか?」の言葉にハッとさせられました。
- ・基本的なことがよく理解できました。ハード面を重視しがちでしたが、ソフト面がいかに大切か わかりました。2月の学会に参加したくなりました。
- ・すごい教材を開発されていることがわかり、大変参考になりました。同じ事例を用いて一貫した 教育ができることは、とても素晴らしいと思いました。
- ・全ての領域の教員間で学生のレディネスを確認しながら、学習を進めていくことができるミッションタウンの開発は、素晴らしいと思いました。学生も1年次から楽しみながら学べる教材だと思いました。
- ・ミッションタウンがすごいなと思いました。
- ・実践的な取り組みに、大いに刺激を受けました。
- ・多様な活動の場である「ミッションタウン」の ICT 教材は興味深く拝聴しました。これまで専門領域間で教授した内容を学生が統合する、ある意味ディプロマポリシーの具現化の一つあると感じました。参考にさせていただきます。
- ・具体的でわかりやすく興味がわいた。
- ・先進事例は、たいへん学ぶべき点が多く有益な情報でした。
- ・多様な看護実践の場へつなぐシミュレーション教育の実践において、チームで展開する重要性を 改めて認識できました。工夫されている実践例も大変参考になりました。
- ・16年間の積み重ねがあってのシミュレーションは素晴らしいです。
- ・シミュレーション教育をカリキュラムに加えていくことにより、学生の学ぶ力は更に向上するのではないかと思います。
- ・実施するためには様々な条件をクリアすることが必要だと思いますが、工夫の使用によっては可能性は広がると思います。いろいろと参考になりました。

# 3. 事例紹介(在宅看護学)の内容について

講師:酒井 康江 先生(福岡女学院看護大学看護学部看護学科 准教授)

# 1)内容について

	人数	割合
大変満足	78 人	51%
満足	69 人	46%
やや満足	4 人	3%
不満足	0人	0%
合計	151 人	100%



- ・酒井先生のご紹介にありました事例も本学も同じような事例を使っていますが目標1にあります 信頼関係を築くのところでは「話し方、聴き方をみる」という点は参考になりました。
- ・具体的な場面設定がありわかりやすかったです。
- ・事例と教授方法を具体的にご提示いただき、大変よく理解できました。
- ・ロールカーテンの使い方、勉強になりました。
- ・在宅看護の演習で行っていることがシミュレーション教育につながっていることが実感できて良かったと思います。
- ・在宅だけではない、大人としてのふるまいについては、様々なところで教えていく必要があると 思います。
- ・在宅の授業において、訪問看護演習としてロールプレイングを行っています。目標設定や方法に ついて、参考にさせていただきます。
- ・ロールカーテンのアイデア素晴らしいです。参考にさせていただきます。
- ・実際在宅担当者なので、よくわかりました。時間数が少ない中でよくされていました。本学はすでに訪問看護ステーションナースを招聘し、意見をいただきながら演習しているので、今後も続けたいと思いました。
- ・実践例のご紹介で大変参考になった。
- ・現在行っているロールプレイのどこをブラッシュアップしたら良いかのヒントをいただけました。
- ・全領域で展開する良さと在宅領域ならではのリアルな工夫が素晴らしい。グループワークの進め 方が具体的で参考になった。
- ・創意工夫があり、日々の学生―教員・指導の姿がみえ、参考になる講演でした。
- ・シミュレーション教育というと、シミュレーション人形を用いた、ACT教育をイメージしていました。シナリオを活用する、リアルな実演ということも含んでいると知り、いろいろ試したいと思いました。
- ・画期的な演習室で新鮮でした。様々なお宅があり、経済力にも左右される。福祉展示場への見学 は愉しそうだと思いました。
- ・参考にしたいアイディアが沢山ありました。
- ・具体的な演習方法で、とても勉強になりました。学生達にどう思考過程を教育するのかなど本当 に聞いて良かったです。
- ・私は在宅看護学を担当しておりますので、このセクションをとっても楽しみにしておりました。 このように練られた教材も大事だと思いますが、一方ではその場その場で自身の持てる力をフル に発揮する即興的な力の発動も大事だと思っております。阿部先生のお話にもありましたように、

カーテン一枚でその場を変更していくシステムについてはぜひ取り入れたいと思いました。

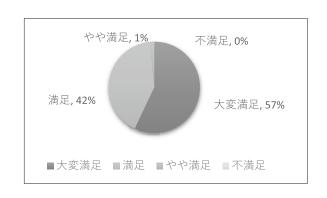
- ・凄くわかりやすい発表でした。具体的な方法は今後の参考になります。
- ・領域は違いますが、環境を整えるという点での工夫についてヒントを得ることができました。
- ・学生が対象者や対象者を取り囲む環境に目を向ける工夫がたくさん見受けられ、この演習後の臨 地実習での学びがたくさんありそうだと感じました。
- ・学内で再現しにくい場のイメージ化に対するアイデアを沢山いただきました。
- ・学生が自らホワイトボードに記載する様子が印象的でした。
- ・演習における目的・目標の設定の仕方、そこからつながる講義・演習のつながり、学生が自主的 に学びを深められるデブリーフィングの枠組みなど、構成の大切さがわかりました。
- ・実際を紹介していただいたため、取り入れることができそうと前向きになることができました。
- ・シナリオデザインシート、アウトラインシートが分かり易くまとめられており、参考になりました。
- ・ミッションタウンがやはりすごいなと思いました。
- ・学生の創造力を発揮させる、意図的な工夫による学生自身が思考を組み立てるための具体的なシミュレーションの進め方が分かりました。
- ・在宅看護領域に所属しているので関心を持って拝聴しました。
- ・正に他領域でのシミュレーション教育の実践例であり、「へえ、そんな方法があったか」と新しい知識も得られ、新鮮な経験のひと時でした。
- ・生活環境をわざと散らかして、学生の気づきにつなげる方法は参考になりました。
- ・授業時の環境設定が素晴らしいと感じた。
- ・学生の訪問時の態度は学内演習時にしっかり身につけることが大切であると思います。本学でも 母性領域の演習にロールプレイングを導入していますが、態度については重要視しています。
- ・実習室の作成方法がとても参考になりました。将来に向けて活用の可能性が広がりましたが、合わせてそのための費用確保の問題も感じました。

#### 4. 事例紹介(小児看護学)の内容について

講師:宮城 由美子 先生(福岡大学医学部看護学科 教授)

#### 1) 内容について

	人数	割合
大変満足	81 人	57%
満足	59 人	42%
やや満足	2 人	1%
不満足	0人	0%
合計	142 人	100%



- ・私は公衆衛生看護領域の教員ですが、小児看護学とリンクする部分がたくさんありました。
- ・赤ちゃん先生の導入について、興味深く拝聴させて頂きました。ぜひ、今後の参考にさせて頂き ます。
- ・小児看護学を担当しております。大変参考になりました。短時間でも実際に子どもと触れ合う機会を設ける大切さを痛感しました。赤ちゃん先生をどのように依頼できるのか検討していきたいと思います。
- ・とてもわかりやすく説明していただけたので、イメージしやすかったです。

- ・実際の乳幼児との関わりとモデルを用いた演習の組み合わせで、実習に生かせそうだと思いました。
- ・体験することの重要性を実感できました。
- ・子どものイメージ化をどう図っていくかを課題としていたので、赤ちゃん先生の導入はとても参 考になりました。
- ・赤ちゃん先生は初めて知りました。勉強になりました。
- ・とてもいい授業だと思いました。
- ・赤ちゃん先生、このような組織との繋がりと、看護教育への取り入れ、ご準備も大変だったこと と思いますが、発達段階を知る上で学生の学びは大きいと思います。小児担当の教員とも情報共 有したいと思います。
- ・新しい試みがよかったです。赤ちゃん先生の意味がやっとわかりました。
- ・乳児の参加が依頼できる体制づくりについて参考になった。
- ・領域の科目単位数や時間数の中で、どこに重点を置いて展開するのか、しっかり位置付けることが重要だなと思った。ついついあれもこれも教えたい、知ってもらいたい…で詰め詰めの講義演習内容になりがちなので、見直していきたいと思う。
- ・実践的で参考になる講演でした。
- ・シミュレーション教育というと、シミュレーション人形を用いた、ACT教育をイメージしていました。シナリオを活用する、リアルな実演ということも含んでいると知り、いろいろ試したいと思いました。
- ・赤ちゃん先生、本当にお母さんたちの役に立ちたいという熱意も感じました。また、卒業生が在 校生のために役立ちたいという心も愛校心だと思います。失敗から学ぶのは、病院では難しいで すが、お母さんの見守りがあると子どもにとっても学生にとっても良いのだと思いました。
- ・赤ちゃん先生について初めて知りました。リアルな子どもを理解する取り組みとしてとても参考 になりました。
- ・赤ちゃん先生の導入により、リアルに学生たちは考えられる演習で、準備も本当に大変だろうなと思いながら、実践されて素晴らしいと思いました。大学との調整や資金をどこから捻出するか等、大学によって違いはあると思いますが、このようにやっている大学があるという事を念頭に置きながら、日々実践していきたいと思います。
- ・私の友人が実際「赤ちゃん先生」をやってますので、話がつながったように思いました。
- ・私は小児ではありませんが、赤ちゃん先生の授業方法は日本全体で実施してもいい取り組みと思いました。お母さんたちの力にもなるように感じます。
- ・小児看護において、やはり、実際のお子さんと関わるお子さんの姿を自分の目でみることの大切 さを実感しました。
- ・少子化で兄弟やいとこ、その子どもと触れ合うという機会が少なくなっている学生達にとって貴重な経験になると思いました。
- ・はじめて「赤ちゃん先生」のことを知りました。小児では、赤ちゃんが SP になりますが、成人では「母親、父親」老年では、「祖父母」等が対象となるため、どの領域にも良い影響が出るのではないかと感じました。
- ・「対象となる子どもがいないからシミュレーションはできない」となりがちですが、何を学ばせ たいかを主軸におけば、入院している患児に限らない学修ができることを学べました。
- ・素晴らしい取り組みだと思います。実際からしか学べないこともあると思いますので、大変貴重 な体験になるのではないでしょうか。
- ・赤ちゃん先生は、人形モデルやペーパーペイシェントより、間違いなくリアルで、そのような演習があることを存じませんでした。
- ・子どもの模擬患者は安全性や個人情報の保護の観点から難しい、と思い込んでいました。
- ・母子のSP参加について思いつきませんでした。当日、不機嫌な赤ちゃんの参加があると、リアル

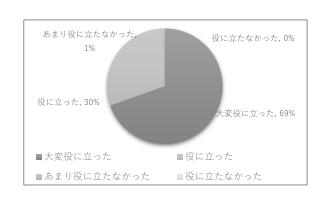
さ満点で、学生がどのように対応するのか、またデブリーフィング結果に注目したいと思いました。

- ・赤ちゃん先生の活用は勉強になりました。ただ、調べたところ自身の県にはないことがわかり、 何か他に活用できる SP の情報などが欲しいなと思いました。
- ・質問もさせていただきましたが、赤ちゃん先生の導入よるシミュレーションの実際、前後のカリキュラムの組み立てなど、今後是非参考にさせていただきたいと思います。
- ・小児看護学領域は、他領域でのシミュレーション教育の実践例であり、「へえ、そんな方法があったか」と新しい知識も得られ、新鮮な経験のひと時でした。
- ・乳幼児がSPとして体験できる学びは大きいと思います。
- ・赤ちゃん先生は、当大学でも参考にしたいと感じた。
- ・母親・子どもとの関わりの少ない学生にとって、実際の場面を見せることは大変意義があると思います。
- ・こういう組織が47都道府県にあることを初めて知りました。コロナ下での工夫もとても参考になりました。
- ・実際の母子とかかわれる機会があること取り入れたいです。

#### 5. 研修会全体

#### 1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	121 人	69%
役に立った	52 人	30%
あまり役に立たなかった	1人	1%
役に立たなかった	0人	0%
合計	174 人	100%



- ・シミュレーション教育について、教員向け講座をシリーズでお願いしたいです。
- ・定期的に行って頂きたいと思います。
- ・とてもタイミングの良い企画でした。
- ・全ての内容に関してとても興味深く拝聴させていただきました。
- ・コロナ世代の看護教育
- ・貴重なご講演を拝聴できたことをとても嬉しく思っております。
- ・実習で肺音の聴取を何もわかっていない、どのように教えているのかと言われています。繰り返 し行うことが必要ですが、その技術を担保するのはどのようにされているのかお教えいただきた いです。
- ・新しい情報や自分に必要な知識を得られただけでなく、「取り組んでみたい」とモチベーション が上がる企画でした。
- ・今後も実際の授業の工夫やアイディアについての企画をお願いします。
- ・実践例の情報交換の場は継続していただきたい。
- ・新カリに向けて授業内容の検討をしているところでタイムリーな研修を受けることができてよかったです。
- ・シミュレーションを用いた教育について学ぶことができ、また、他の領域の教育や現状を知る機会となりました。

- ・今の問題、解決につながる企画で、講師の方々の分かりやすいお話でとてもよかったと思います。
- ・この様な状況となり、本当に実習や演習に何をどうするか、考える日々です。目標を盛り込み過ぎでは?とか、何を学ばせたいかなど、今の自分に刺さるお言葉が多く、頑張れねば、と思いました。
- ・常に上の先生より、若い人の勉強の為と言われて、経験した中で自分が演習を組んできた経緯があり、自信がなく年数だけが経ちました。参考書や文献で勉強してきましたがそれだけでは限界があり、このような企画によって、本当に勉強になりました。凄く励みになりました。
- ・身動きがとれない閉塞感の中悶々としておりましたが、悩んでばかりいないで前に進もうという 勇気をいただきました。
- ・コロナ禍で臨地が難しい現状のためシミュレーションが必要になっていますが、「動いて満足」 に陥らないように、学びを保証することの大切さを学べました。
- ・実際の具体例なども掲示いただき、今後の参考にさせていただけると思います。
- ・この一年、コロナと向き合いながら教育は進んできました。本日の先生方のお知恵と技術と実践 力でたった一年でシミュレーション教育がここまで進化したことを知ることができました。
- ・母性看護学領域の実習施設の確保が年々厳しくなっています。効果的な実習展開に関する企画を ご教示いただけますと幸いです。
- ・成人看護学領域のものです。手探り状態でおこなっていましたので、とてもタイムリーな話題で した。基本的なことや実践例を拝視聴することができ、ここは取り入れてみようかなどとイメー ジすることができました。私自身のモチベーションもあがりました。
- ・今の環境の中で、できるシミュレーションやアクティブラーニングを考えて実施していくことが 大切だと思いました。教える側の豊かな発想力や創造力が不可欠であることを実感しました。自 分の授業に取り入れていきたいと思います。
- ・他の領域のシミュレーション教育事例について聴講したいと思いました。
- ・単にシミュレーションということではなく、コロナ禍ということも踏まえた内容もあり、非常に 勉強になりました。本学でもシミュレーションセンターを開設して3年になりますが、まだまだ 勉強中ですのでとても参考になりました。学内で共有したいと思います。
- ・コロナ禍により、シミュレーション教育の重要性を痛感していたので、今後の科目の組み立てに 非常に役立った。
- ・このような、現場でも教育機関でも重要な人材育成についてのご企画、情報共有とチームで連携 する重要性を再認識できました。
- ・臨床指導者と一緒に行うことが学生の教育にとってとても理想です。

# 6. 今後、本協会「大学教育委員会事業」で希望するテーマ、開催方法、開催時期、場所など

# ①希望するテーマ

- ・新任教育者の悩みや意見交換
- ・各大学での特徴ある新カリへの取り組みについて
- ・論文査読者の義務・役割など
- ・新カリキュラムに関わる内容
- ・学習成果が異なる学生への教育に関する指導内容など昨今のアクティブラーニングなど学生主体 の教育において積極的にかかわる学生がいる一方で参加できない学生もいる。そのような学生に 対する指導や教育手法についてご教授いただければ幸いです。
- ・看護基礎教育におけるアクティブラーニングの具体的実践
- ·情報交換会
- ・私立看護系大学は、学生の学力の格差が大きいです。学力が不足気味な学生への教育の方法について、取り上げていただきたいです。

- ・遠隔で行う授業で活用できる技や工夫
- ・シミュレーション教育の実践
- ・演習・講義、これからのカリキュラムでの、実践の内容
- ・教員自身のリフレクションについて
- ・同じテーマでも、他領域(今回の在宅・小児以外)の取り組みや、縦横の連携(シミュレーションの学年ごとのステップアップや領域を超えた共同)についてご紹介いただきたい。
- ・他のアクティブラーニングを用いた授業設計について
- ・多様性を重視した教育方法の在り方
- ・シミュレーション演習へのバーチャルリアリティーの活用(場の設定、仮想模擬患者、360度カメラなどについて、メカニックと運用の点から学びたいです)
- ・母性看護学領域に関する効果的な教育方法
- ・学生のアカデミックスキルについて。全ての履修科目に係り、実習において実践はできても記録 で躓く学生が多い。コミュニケーションにもつながる課題と考えているため希望します。
- ・シミュレーション教育の方法を情報共有する機会がもっと欲しい。
- ・教育方法について
- ・臨床判断能力を育む教育について
- ・母性看護学の進め方※分娩件数が減少している中での工夫
- ・アフターコロナに向けて、学士課程における看護学基礎教育はどうあるべきか。各専門領域別教育の現状と課題を共有し、今学生に伝えるべきそれぞれの看護学教育を考える、など
- ・ディプロマポリシーを目指すために、各専門領域間で連携と協働の在り方、学生を中心としたチーム教育?の在り方に関するもの
- ・「大学教員の勤務形態・労働環境」学生は看護管理などで学ぶ機会がありますが、一番身近な看護職である教員の働き方と仕事量はえげつないものがあると感じています。今日の講演でもありましたように、何を残し何を捨てる、戻すのか限られた職業人生の中で学生により良い教育を実践するには教員自身が守られていないといけないと強く感じています。時代は変わっていますし、私立は特に法人や上の先生の発言で理不尽だったり法律無視しているのでは?と感じる労働形態になっている部分も多いです。教育と絡めてこのようなテーマにも取り組んでいただけると嬉しいです。
- ・現場でも教育機関でも重要な人材育成についてのご企画、情報共有とチームで連携可能なテーマ
- ・キャリアと能力形成について
- ・倫理教育 意思決定支援 エンドオブライフケア

#### ②開催方法

- ・オンライン (19件)
- · Zoom (4件)
- ·Zoom ブレイクアウトセッションを使用しての交流など
- ・遠隔または、繰り返し視聴できるようオンデマンド形式を希望します。
- ・オンライン (オンデマンド対応あり)、現地開催 (サテライト会場など)
- ・オンラインであってもできれば参加型の研修
- ・同様にオンラインとオンデマンドのハイブリッド型

#### ③開催時期

- 2月
- ・月1回など定期的に
- 秋頃(2件)
- · 土日祝日希望(4件)
- · 週末 (2件)

- ・実習開始前の8月(2件)
- ・9月、10月 (3件)
- ·3月、4月、5月
- · 今回同様 10 月上旬
- ・8月~9月

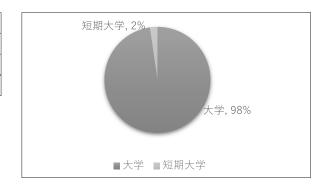
# 4開催場所

- ・オンライン(11件)
- ・会場とオンラインのハイブリッド型(2件)
- ・直接参加型であれば都内

#### 7. 参加者について

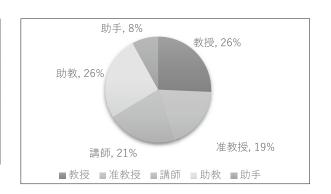
# ①所属

	人数	割合
大学	172 人	98%
短期大学	4人	2%
合計	176 人	100%



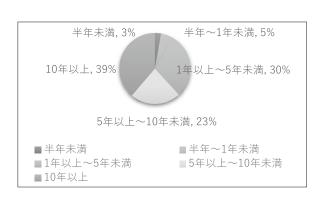
#### ②職位

	人数	割合
教授	45 人	26%
准教授	34 人	19%
講師	37 人	21%
助教	45 人	26%
助手	14 人	8%
合計	175 人	100%



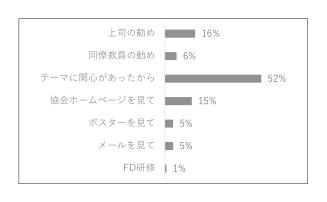
# ③在職期間

	人数	割合
半年未満	5人	3%
半年~1年未満	9人	5%
1年以上~5年未満	54 人	30%
5年以上~10年未満	41 人	23%
10 年以上	69 人	39%
合計	178 人	100%



# ④参加のきっかけ (複数回答可)

	人数	割合
上司の勧め	36 人	16%
同僚教員の勧め	14 人	6%
テーマに関心があったから	114人	52%
協会ホームページを見て	32 人	15%
ポスターを見て	10人	5%
メールを見て	10人	5%
FD研修	2人	1%
合計	218 人	100%



# 一般社団法人日本私立看護系大学協会 大学教育委員会

# 新任教員向けの研修会「新人とともに成長する教員組織」講演アンケート結果

当日参加者:70名、動画視聴回数 484回 アンケート回答者:92名

Zoom を用いたライブ配信

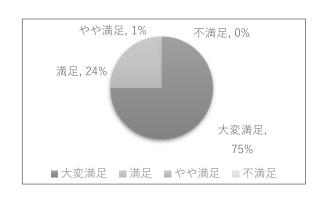
開催日:2022.1.29(土)

動画配信期間:2月9日~5月9日

1. 講演「禅に学ぶ人の育て方」の内容について 講師:松山 大耕 氏(妙心寺退蔵院 副住職)

#### 1) 内容について

	人数	割合
大変満足	69 人	75%
満足	22 人	24%
やや満足	1人	1%
不満足	0人	0%
合計	92 人	100%



- ・禅の切り口から教育(教え育てる)という話は、理解できるが、肌が合う人とそうではない人が いると思う。
- ・教育者としての在り方についてハッとさせられるメッセージをたくさんいただきました。
- ・本当に心に響く講演でした。
- ・禅という、物自体をあまり知らない中で講演をお聞きしましたが、教育について非常に参考にな る視点が多かったと思います。
- ・自身の日々の行動や教育ついて振り返るきっかけとなりました。
- ・個人的に仏教の考え方は興味深いなと思っていたので、とても面白く学ばせていただきました。
- ・禅の人の育て方を自身の教育にも取り入れて、実践していきたいと強く感じました。
- ・元上司が聞いていてくれたら、と思いました。
- ・具体的に体験を話され、また映像(短編映画)を用いて人を育てることをお話し頂いたので、イ メージがつきました。
- ・素敵なご講演でお話に魅了されました。
- ・自分の日頃の働きを振り返ることができました。
- ・今回の講演のように看護業界以外の方から学ぶことが大切なのだと感じました。
- ・伝えることに難しさを感じ、どのように伝えることで学びが深まるのかと自問自答しておりましたが、 答えを与えるのではなく学生自身に考えさせることを何よりも優先させていきたいと思いました。
- ・今日のご講演を楽しみにしていました。受講させて頂き、終始お話に惹きつけられ、大変興味深 く拝聴しました。人を育てる前に自分自身が禅で表現するところの「働き」ができていたか問う 機会にもなりました。
- ・教育に生かすというより、自分が模索しながらやっていたことが正しかったと保証いただけたよ うな気持ちになりました。講師の先生の子育てについても聞いてみたいと思いました。また著書 もあるようであれば情報もあるとよかったと思いました。自分で調べて松山先生にはたどりつか

なかったと思うので、このような機会をいただきありがたかったです。

- ・人を育てることの原点に戻り、考えてみたいと思いました。教育者としてどうあればよいか、未 熟なため悩ましい限りです。
- ・看護にも通じるところがあり、初年度教育の中でも活かしていきたいと感じた。
- ・人を育てるには時間がかかるのだなと改めて考えました。
- ・大変素晴らしいお話を伺うことができました。直ぐに変わるものではないと思いますが、人を育 てる自分の姿勢として大切にしていきたいと感じながら拝聴しました。
- ・本日いただいたお話は心が洗われるような気がいたしました。今後の教育活動で心に留め参考に させていただきたいと思いました。
- ・専門学校から大学に変わったこと、コロナの状況が続く中、どのように学生観を捉えていったらよいのか、試行錯誤しています。自分がこれから心掛けることはまだまだあるのだなと思い、今日学んだことをまず自分が行っていくことが大事であると思います。
- ・非常に興味深く拝聴させていただきました。私は教員1年目で、これまで集中治療室で働いていた時、小さな失敗でも患者様の命に直結するため、失敗することが許されない場で教育が行われている場で育ってきたため、まず「教える、指導する」ということが習慣化されていました。そのため、学びの順番の「修 思 聞」、とにかくやってみて、失敗を繰り返しながら、ちゃんと自分で見出す事、それを待つことが大切なのだということを学びました。これからの教育に活かしていきたいと思います。
- ・時間との戦いで、看護教育はどれくらいかけられるのかと思いました。待っていることでできるようになるのはわかるのですが、ヒト・モノ・かね・であったり、安全・安楽・効果・経済(時間)であったり、気が付いても、ものぐさな学生であったり、医療者になるという心構えを育てることに苦慮しています。
- ・禅という視点からの人の育てかたについて大変多くの学びをいただきました。育てる側として重要となる姿勢についても、とても大切なことを教えていただいたと思います。
- ・学生から答えを求められたらすぐに教えてしまっていたのですが、「わざと教えない、ちゃんと モヤモヤさせておいて、わかるまでのプロセスがその子の成長になる」という言葉が響きました。 ぐっとこらえて、なぜ疑問に思ったのかから話を聞いて、答えに自分でたどり着けるように促せ るようになりたいと思いました。京都の宝泉寺というところで昔修行したことがあるので、先生 の話がところどころ懐かしかったです。テレビもスマホもなくて、食べることも掃除することも すべてが修行で、よい体験でした。桜田のご主人の動画を見せていただいて、あの域にはいけな くても、普段の食事を作るときに、思い出して、食材や手順に向き合いたいです。
- ・禅の人の育て方「(いわれたことはしないので)ロールモデルをみせること」「こころの目で観ること」「瞬時に動くこと」「働きが大事なこと」「わざと教えない」は看護基礎教育にも大学組織の活性化にも役立つことと思いました。まさしく心に響く講演でした。
- ・少子化のこの時代に「親身に手厚くすることが教育」という人もたくさんいます。
- ・とても学びが多い研修でした。日々悩みながら学生に関わっている中で、もう一度自分を振り返り、学生個々にどのように関わることが望ましいかのヒントを頂きました。
- ・学生にうまく教えることができていない、先輩教員のようにできないことを目の当たりにすることも多くて、日々辛かったのですが、松山先生のご講演を聞き、私自身の学び方、考え方の軸となるものを得ることができました。自分のやり方を再度観て(振り返り)、自分の良い所、改善していかねばならないことを把握し実行していく。そして、学生たちの心を観て、どの方向に向かって行ってもらいたいのか常に考え、一緒に成長していきたいと思いました。
- ・教育研究機関で働き始めて「そもそも人を育てるって何だろう」と思っておりました。お話しを 聞きながら、今までの職場でのこと、また自分が学生時代の教員の言葉などを思い出して、私は こうやって育ててもらったのだと振り返りました。教えなければとか伝えなければと思っていま したが、学生さんの自ら「成長できる力」を支援するつもりでやっていきたいと思います。

- ・禅は、他者との関係性において客観的に自己を見つめ、俯瞰できる「静」と「動」を感じました。
- ・禅の人の育て方の5つの要素について、5番目のわざと教えないということについて新しい視点でした。学生に指導しているとつい正解を伝えてしまっていたことに気づかされました。自分で考えて出した答えではないと意味がないということもよく理解できました。これは、学生に対してだけではなく、自分自身が成長していく上でも大事な視点だと思います。禅の考え方は、教育の場にも通じるものがあることが理解できました。
- ・宗教については私も教えをいただいていて、より共感できました。
- ・禅の考え方など、非常に勉強になりました。新たな視点を得ることができました。
- ・講師のお人柄がとてもすばらしく、そして親しみやすく感じました。禅の人の育て方について、全てのエピソードについて分かりやすかったです。自分自身が実践し成長していく学ぶ姿勢が学生にも伝わるのだろうと思えました。講義や実習で具体的に生かせることもあると思いますが、まず人としての生き方を学べました。料亭のお話も料理の腕だけではない人柄や常に探求する姿勢や人への心遣いなどを感じることができましたし、映像として残すことは家族にとってだけではなく禅や日本にとってもとても価値のあることであると思いました。
- ・禅の教えがどのように看護教育とつながっていくのか、はじめは疑問を持ちながら受講いたしました。
- ・これまで、これからの自己の教育・学生への関りについて考えるいい機会を頂きました。
- ・視点が新鮮でした。
- ・禅宗の人の育て方の全容にふれ、「セオリーファーストでない」ことは、強い共感を得ました。
- ・上司に文句ばかりを思っていたが、その前に上司に対する尊敬の念を忘れかけていた、それに気 づかされた。
- ・「禅の人の育て方」は非常に考えさせられました。
- ・教員1年目の者です。禅について何も知らずに拝聴しましたが、大変わかりやすく説明してくださり勉強になりました。教える立場、教わる立場ともにどのようなふるまいをすべきか良い指針とさせていただきます。もう1点、「尊敬する人とともに働く」ことも職場を選ぶ条件の1つとおっしゃっていましたが、まさに私自身がその理由で教員になったので、この道を選んでよかったと改めて思いました。
- ・「もやもやさせておく」深い言葉だと思います。答えを急がないことを大事にしたいと思います。
- ・今回初めて禅にふれ、禅の考え方など非常に興味深いと感じました。新たな視点を学ぶことができて、有意義な研修となりました。
- ・学生との向き合い方に非常に参考になりました。
- ・人を育てる上で禅の考え方は非常に重要だと思っています。そのことを具体的に教えていただき ました。
- ・自分自身の生き方を見つめる思いを持ちました。
- ・大変興味深く、あっという間に時間が経ちました。
- ・禅の人の育て方について学び、一つ一つの言葉がとても心に響きました。
- ・大変興味深く心に響くお話と、美しい映像で「研修会」とありながら、癒しと安心を感じられる 内容で感動致しました。
- ・禅の教えは大学教員の教育にもつながる部分があるなと感じました。
- ・人の育て方について、教育現場のみならず、臨床の現場で新入社員に対しての教育にも通じる内容だと感じました。
- ・大変ためになりました。育てること育てられること成し遂げること成し遂げないことは「もやもや」が大事だと知りました。修思聞を実践していきたいと思います。
- ・『安心を与える人』は看護師にも求められていることであり、共通点が多いと感じました。特に「禅の人の育て方」から、看護学生をよく観て学生の頑張りや良い気づきを言葉にして返すこと、実 技でのこだわりや看護観を見せること、実体験を語ることを大切にしてきたことは間違っていな

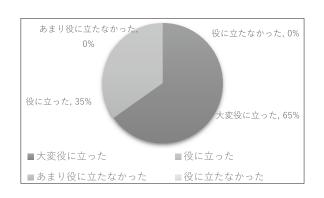
かったと感じることができました。特に病院実習中、すぐにケア実践につなげる必要があり「わざと教えない」ことはとても難しいことですが、深い学びにつながるために待つ、発問や気づく機会を与えることにこだわっていきます。

・人を育てることで大切なことを再確認できる講演でした。

#### 2. 研修全体

#### 1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	60 人	65%
役に立った	32 人	35%
あまり役に立たなかった	0人	0%
役に立たなかった	0人	0%
合計	92 人	100%



- ・教育者になってから初めて研修会に参加させていただきました。非常にためになる講演でした。
- ・他者がどうあるべきかとかよりも、自分自身が教職員としてどうあるべきか、考える機会となり、 とても良い企画に参加させて頂きました。
- ・医療系ではなく他分野の方のお話を聴くことは大変良いと思いました。
- ・視座を変えて考えることは非常に大切なことだと考えております。看護分野に凝り固まらず、俯瞰できる教員になれるように、日々学んでいきたいと思います。
- ・このように極めた方のお話を伺える機会が今後もあることをのぞんでいます。
- ・実際に禅を行ってみたいと思いました。
- ・いろいろな悩みを抱えながら働いている教員が多いと思います。その中で一人の人間として成長 するためにも、多くの努力や忍耐が必要だという大きな気づきが得られました。
- ·1月末は時期的に参加しやすいと思います。新しい環境で勤務をはじめた教員にとって、ほっとできるような研究企画です。
- ・新人教員として1年が経とうとしています。開催時期は良い時期であったと思います。
- ・普段接しない業界の方のお話を聞くことができ、視野を広げることができたと共に今後自分自身 の成長のためにも様々な業界の方と交流する機会を持ちたいと思いました。
- ・自分に置き換えると足りなさが目立ち、モチベーションをもって切り替えていきたいと思います。
- ・違う分野の方の話を聞けるととても学ぶことが多くありがたいです。
- ・とても短く感じるくらい話に引き込まれました。人として自分が成長すること、学生にその姿は 伝わると思いました。講義や実習にも生かせる内容でとても良かったです。
- ・学びを活かしていけるように頑張りたいと思います。
- ・禅学を学んだことがあったので、どのように教育に活かせるということに興味があったので、と ても良かったです。
- ・看護は人間学ともいわれます。人が人を育てるという意味では、とても良かったです
- ・今回、全く違う領域の講師の先生の講義を聴けたことで、大きな意義がありました。
- ・看護学生に自分自身を語れメッセージを受け、これでいいのだと思えた。
- ・新任教員向けではなくあらゆる立場の教員に共通する内容で大変勉強になりました。
- ・オンデマンドで視聴させていただきました。オンデマンド配信、大変ありがたいです。

- ・教育について考えることができた。
- ・看護教育のセオリーではなく、禅という看護とは違う業界の教えにより、視野が広がりました。
- ・人を育てることの本質を再考する良い機会となりました。

# 3. 今後、本協会「大学教育委員会事業」で希望するテーマ、開催方法、開催時期、場所など ①希望するテーマ

- ・ビジネスメールや会議議事録の書き方ポイントなど
- ・人間力を育てる企画は、もっとあってよいと感じました。
- ・看護教育に特化した企画
- ・学生の学びへの動機づけ
- ・同領域や共通するテーマの方が、それぞれ集まり (ブレイクアウトルームなどで)、自由に話し合いができるセミナー
- ・尊敬される教員になるには
- ・国家試験対策の現代的課題・年2回開催はできないのか。以前行われたことはなぜ消滅したのか。
- ・アクティブラーニングを取り入れた講義の具体的方法について学びたいです。時間が限られた中で学生が主体的に学べる授業作りをどのように考えていけば良いかを知りたいと思いました。
- ・経験型実習教育について、オンライン実習になった場合の学びの促進の手段と方法について
- ・教育 DX や VR
- ・今回の続編
- 看護教員の育成
- ・国内に限らず海外等でも取り組まれている教育についてや今後の課題について
- ・看護職のキャリア発達について
- ・入職後に挫折してしまう卒業生に対してのサポートのあり方について
- ・教育力向上に資する内容
- ・教員の質向上につながる研修

#### ②開催方法

- ・オンライン、Zoom (18件)
- ・可能であれば対人
- ・ハイブリッド方式であると、感染状況や業務の都合に関わらず参加しやすい面と、時には出かけて対面でお話しする機会にもなり、ありがたいと思います。

#### ③開催時期

- ・土日
- ·1月
- · 2月 (2件)
- ・3月(4件)
- ·5月
- ・8月
- ・9月
- ・秋ごろ
- · 実習指導期間外
- ・夏休み (2件)
- ・土曜日か平日の19:00ごろ

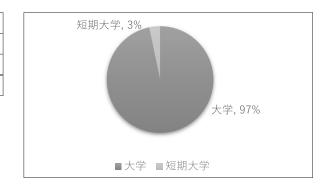
#### 4開催場所

- ・オンライン、Zoom (10件)
- ・新潟県

# 4. 参加者について

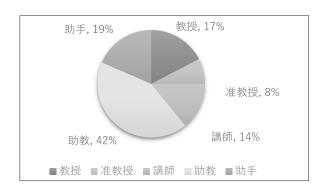
#### 1)所属

	人数	割合
大学	89 人	97%
短期大学	3人	3%
合計	92 人	100%



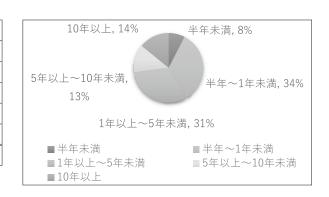
#### 2)職位

	人数	割合
教授	16 人	17%
准教授	7人	8%
講師	13 人	14%
助教	39 人	42%
助手	17 人	19%
合計	92 人	100%



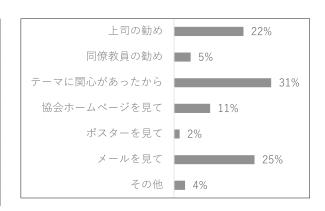
#### ③在職期間

	人数	割合
半年未満	7人	8%
半年~1年未満	31 人	34%
1年以上~5年未満	29 人	31%
5年以上~10年未満	12 人	13%
10 年以上	13 人	14%
合計	92 人	100%



# ④参加のきっかけ (複数回答可)

	人数	割合
上司の勧め	25 人	22%
同僚教員の勧め	6人	5%
テーマに関心があったから	35 人	31%
協会ホームページを見て	13 人	11%
ポスターを見て	2人	2%
メールを見て	29 人	25%
その他	4人	4%
合計	114人	100%



(その他の内容)

大学の FD 委員会主催のため、大学必須の研修として 学内の掲示板を見て、新入教員研修の一環として

# 一般社団法人日本私立看護系大学協会 大学教育委員会 新任教員向けの研修会「新人とともに成長する教員組織」グループワークアンケート結果 当日参加者:32名、アンケート回答者:26名

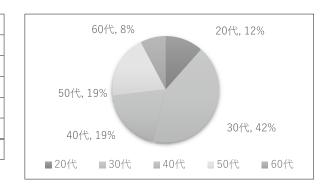
Zoom を用いた開催

開催日:2022.1.29(土)

## 1. 参加者について

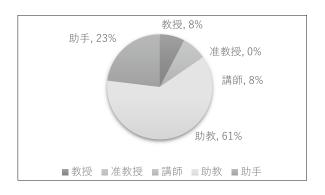
## ①年齢

	人数	割合
20代	3人	12%
30代	11人	42%
40代	5人	19%
50代	5人	19%
60代	2人	8%
合計	26 人	100%



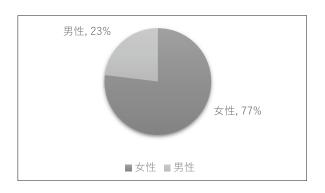
## ②職位

	人数	割合
教授	2人	8%
准教授	0人	0%
講師	2人	8%
助教	16 人	61%
助手	6人	23%
合計	26 人	100%



## ③性別

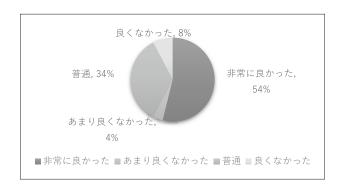
	人数	割合
女性	20 人	77%
男性	6人	23%
合計	26 人	100%



## 2. グループワークについて

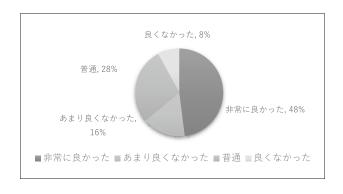
## 1) テーマ「上司に対して望むこと」について

	人数	割合
非常に良かった	14 人	54%
あまり良くなかった	1人	4%
普通	9人	34%
良くなかった	2人	8%
合計	26 人	100%



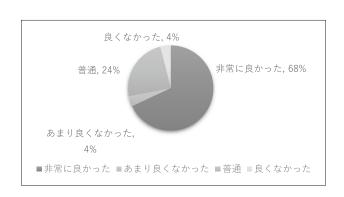
## 2) テーマ「同僚に対して望むこと」について

	人数	割合
非常に良かった	12 人	48%
あまり良くなかった	4人	16%
普通	7人	28%
良くなかった	2人	8%
合計	25 人	100%



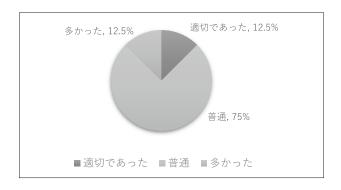
## 3) テーマ「自分のめざす組織人」について

	人数	割合
非常に良かった	17 人	68%
あまり良くなかった	1人	4%
普通	6人	24%
良くなかった	1人	4%
合計	25 人	100%



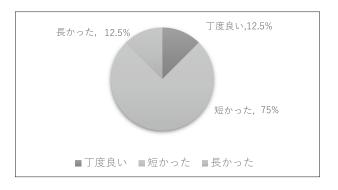
## 4) 1 グループの人数について

	人数	割合
適切であった	1人	12.5%
普通	6人	75%
多かった	1人	12.5%
合計	8人	100%



## 5) グループワークの時間配分について

	人数	割合
丁度良い	1人	12.5%
短かった	6人	75%
長かった	1人	12.5%
合計	8人	100%



## 6) グループワークに参加した理由について

- ・他の新任教員の方がどのような経験をしているのか知りたかったため。
- ・同じ職位の方の意見や悩みを共有できるできるかと思い参加しました。
- ・他大学の方と話す機会が普段あまりないため。
- ・午前の松山副住職の学び・人の育て方について意見を共有し、深めたかったから。
- ・大学の FD 委員会で決められた研修であったため。
- ・教育研究機関にいることでとても学びになっているのですが、色んな先生方のご意見を伺って、 役割を考えながら過ごすことで、さらに学びを得たいと思ったため。
- ・他の学校の新任教員と話してみたかったため。
- ・講義での学びを深めることや、他大学の教員との交流が図れると思い、参加しました。
- ・情報共有や悩みを相談したかったため。
- ・生の声が一番信憑性があり、若い人の意見が今後の看護教育を作用するから。
- ・他の先生の意見を知りたかったから。
- ・同じ新任の方と情報交換したかったから。
- ・他の大学教員になった方々の意見を伺いたかったため。
- ・他の大学教員の考えを聞きたいと思ったため。
- ・新しい組織に4月から入職し、大学組織の常勤職員(講師)は初めての経験であり、10か月経過したものの順応するのに精いっぱいで自律した仕事ができていないジレンマがありました。組織人としてどんな役割が果たせるか、自分の存在意義を確認したいと考えて参加しました。
- ・他大学の方との意見交換ができるため。
- ・他の学校の先生方と意見を聞いて、頑張ろうと思える励みになると思ったから。
- ・他の教員の意見等を聞いて今後の自分の働きにつなげたかったため。
- ・他の大学の若手の先生方のご意見をお伺いする良い機会になると思ったため参加しました。

#### 3. 今後、取り上げてほしいテーマについて

- ・教育と研究の両立について
- ・今回の研修のスキルアップ講座
- ・他の職種や組織の方のお話し
- ・オンライン実習の工夫
- ・医療職以外の視点からの教育に関するテーマ
- ・学生への動機づけ
- ・教員がやめないようにするにはどうしたら良いか。
- ・新任教員の困りごと
- ・教育 DX
- ・効果的な遠隔授業の具体例

- ・混合研究の実践について
- ・臨地実習での学生へのかかわり方
- ・臨床では経験する事のないクラス担任やゼミ運営などに関してのアドバイスが頂戴できる機会が あると良いなと思います。

## 2. 研究活動委員会

#### 1. 趣旨

- ①教員による研究費獲得の向上、学術研究の大学内環境や条件を向上するための方策の調査研究
- ②研究助成と研究ネットワークづくり
- ③研究に関するセミナー、研修会等の実施
- ④上記①~③に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

## 2. 担当理事および委員(○:委員長)

○秋元 典子(甲南女子大学)

坂本 真理子 (愛知医科大学)

島袋 香子(北里大学)

武田 祐子 (慶應義塾大学)

### (研究助成選考委員)

杵淵 恵美子(駒沢女子大学)、小長谷 百絵(上智大学)、小山 友里江(北里大学)、

佐々木 綾子 (大阪医科薬科大学)、高田 由美 (日本赤十字秋田看護大学)、

中岡 亜希子(神戸女子大学)、原 礼子(清泉女学院大学)、吉田 久美子(高崎健康福祉大学)

#### 3. 2021 年度事業活動報告

#### 1) 研究助成事業

2021年度の看護学研究奨励賞、若手研究者研究助成、国際学会発表助成の募集を4月1日から5月31日に行い、7月11日に選考委員会で選考した結果を第2回定例理事会(7月31日)に提出し、看護学研究奨励賞11件、若手研究者研究助成9件、国際学会発表助成3件を採択することを決定した。8月から助成金の交付を行った。(秋元委員長は理事会において指摘のあった若手研究者選考結果一覧の研究経費の妥当性の評点を修正し河口会長へ提出し、河口会長が最終確認した。)

#### 2021 年度研究助成事業選考委員会の開催

日時:2021年7月11日(日)10:00~12:00

開催方法: Zoom を用いた Web 会議

出席者:理事(4名)秋元典子、坂本真理子、島袋香子、武田祐子(五十音順 敬称略)

選考委員(7名)杵淵恵美子(駒沢女子大学)、小長谷百絵(上智大学)、小山友里江(北里大学)、

佐々木綾子(大阪医科薬科大学)、高田由美(日本赤十字秋田看護大学)、

中岡亜希子(神戸女子大学)、吉田久美子(高崎健康福祉大学)(五十音順 敬称略)

欠席者:選考委員(1名)原礼子(清泉女学院大学)(敬称略)

選考結果(1)看護学研究奨励賞 応募:17件 採択:11件

(2) 若手研究者研究助成 応募:20件 採択:9件

(3) 国際学会発表助成 応募: 4件 採択: 3件

## 2021 年度研究助成事業選考結果

## ①看護学研究奨励賞

17件の応募があり、以下11件を採択した。

氏 名	所 属	論 文 名	掲 載 誌
飯尾 美沙	関東学院大学	Beneficial Features of a mHealth Asthma App for Children and Caregivers: Qualitative Study	JMIR mHealth and uHealth
池田 真弓	帝京大学	Vaginal palpation versus transabdominal ultrasound in the comprehension of pelvic floor muscle contraction after vaginal delivery: a randomised controlled trial	BMC Women's Health
小澤 直樹	一宮研伸大学	Quality of Life in patients with nonalcoholic fatty liver disease: Structure and related factors focusing on illness uncertainty	Japan Journal of Nursing Science
小坂 志保	東京工科大学	Association among kidney function, frailty, and oral function in patients with chronic kidney disease, a cross sectional study	BMC Nephrology
宍戸 恵理	聖路加国際大学	Effect of a decision aid on the choice of pregnant women whether to have epidural anesthesia or not during labor	PLOS ONE
髙岡 宏一	関西福祉大学	UTILITY OF THE EMERGENCY SEVERITY INDEX BY ACCURACY OF INTERRATER AGREEMENT BY EXPERT TRIAGE NURSES IN A SIMULATED SCENARIO IN JAPAN: A RANDOMIZED CONTROLLED TRIAL	Journal of Emergency Nursing
高谷 知史	大手前大学	Development and psychometric testing of a family concordance competency scale for families with children having chronic illnesses	Japan Journal of Nursing Science
丹治 史也	日本赤十字秋田 看護大学	Effect of a financial incentive (shopping point) on increasing the number of daily walking steps among community-dwelling adults in Japan: a randomised controlled trial	BMJ Open
中山 祐一	摂南大学	Conceptual Framework for Understanding the Transition of Children with Severe Motor and Intellectual Disabilities to Adult Life after Graduation	International Journal of Disability, Development and Education
蜂ヶ崎 令子	東邦大学	Examining directional changes when walking with an intravenous pole: A comparison of turning methods with and without stopping	Japan Journal of Nursing Science
三戸部 純子	医療創生大学	Top-Down Processing of Drug Names Can Induce Errors in Discriminating Similar Pseudo- Drug Names by Nurses	Human Factors: The Journal of the Human Factors and Ergonomics Society

## ②若手研究者研究助成

20件の応募があり、以下9件を採択した。

氏 名	所 属	研究テーマ
石井 忍	北里大学	障がい児をもつ母親の地域活動の参加とメンタルヘルスとの関連
伊藤 歩美	高崎健康福祉大学	看護大学生のキャリアコミットメントの様相
稲野辺 奈緒子	東京女子医科大学	患者満足度に基づいた看護の質を評価するための尺度開発
川原 理香	松蔭大学	人工股関節全置換術後患者のセルフマネジメント力を高める ICT を活用した学習支援プログラムの開発と評価
清水 なつ美	武蔵野大学	腎代替療法選択外来における看護師の支援に関する研究
鈴木 慈子	仙台赤門短期大学	看護師の曖昧さへの態度と終末期ケアへの態度、感情対処傾向と の関連
鈴木 洋子	昭和大学	卒後2年目看護師の『リアリティショック』の解明
手嶌 大喜	関西医科大学	日本語版 MCI を用いた臨地実習指導における看護教員のメンタ リング能力の実態
松本 晃子	藍野大学	新型コロナウイルスにより修学に影響を受けた新人看護師に対す る教育的支援

## ③国際学会発表助成

4件の応募があり、以下3件を採択した。

氏 名	所 属	論 文 名	学 会 名
岡田 朱民	佛教大学	The efficacy of PMR for ischemic heart disease prevention	The 41st American Holistic Nurses Association Annual Conference
中島 一成	武庫川女子大学	COMPARISON OF THE DEPTH OF NEEDLE PENETRATION IN THE VEINS OF THE FOREARM USING ULTRASOUND VISUALIZATION TECHNOLOGY -BASIC RESEARCH-	2022年EAFONS (East Asian Forum Of Nursing Scholars)
森本 眞寿代	西九州大学	Review of the Japanese literature on scales for child-rearing anxiety and parenting stress	第 32 回 ICM

\*採択時の所属校です。

# 応募者数と受賞者数

【2017年度から2021年度】

	看護学研究奨励賞		若手研究者研究助成		国際学会発表助成	
年 度	応募者数	受賞者数	応募者数	受賞者数	応募者数	受賞者数
2017 (平成 29) 年度	8	4	20	10	5	2
2018 (平成 30) 年度	13	5	38	9	16	6
2019 年度	14	8	17	8	3	3

2020 年度	11	7	22	10	5	5
2021 年度	17	11	20	9	4	3
合 計	63	35	117	46	33	19

## 2) 学術研究および学術研究体制に関する事業

〈第1回研究セミナー〉

・研究助成受給者(4名)による研究成果発表

**抄録およびスライドデータのホームページ配信**:2021年9月18日~20日

視聴回数:109回

・成人期以降の重症心身障がい者を在宅で介護する母親が「親亡き後」への思いに順応していくプロセス

常国 良美(関西福祉大学)

- ・パーキンソン病患者における便秘と Quality of life との関連に関する研究 土井 智子 (名古屋学芸大学)
- ・手術室看護師への看護実践能力を高める効果的な教育の探究: テキストマイニングを用いた自由回答文の解析から

宮本 いずみ (久留米大学)

- ・内視鏡外科手術における神経損傷予防のためのポジショニング
  - ―手術看護認定看護師を対象としたパイロットスタディ―

横山 奈未 (日本赤十字広島看護大学)

\*採択時の所属です。

#### 講演

テーマ: 「リサーチクエスチョンから研究計画へ」

講師:坂下 玲子 氏(兵庫県立大学 看護学部 教授)

日時: 2021年9月18日(土)13:00~15:00

開催方法:Zoom ウェビナーによるライブ配信および後日動画配信

プログラム:

13:00~13:10 開会挨拶·会長挨拶

13:10~14:40 講演: 「リサーチクエスチョンから研究計画へ」

講師:坂下 玲子 氏(兵庫県立大学 看護学部 教授)

14:40~14:55 質疑応答 14:55~15:00 閉会挨拶

講演の概要

講演の内容は、①看護研究の特徴、②リサーチクエスチョンの設定、③研究デザインの選択、④研究計画書の作成、の4つで構成され、研究計画を書くことは「幸せのストーリーを描くこと」というハッとするような、また強く記憶に残る用語を用いて説明されました。つまり、解決したい問い、しかもまだ誰も答えを出せていないが研究により明らかにできる問い(リサーチクエスチョン)を解くこと(研究目的)ができれば、このような幸せ(研

究の意義)が待っている、という幸せのストーリーを描くことが研究計画書を作成することに等しい、という説得力あるご講演でした。

当日参加者:212名

動画配信期間: 2021年10月11日~2022年1月11日

視聴回数:518回



#### 〈第2回研究セミナー〉

・研究助成受給者(4名)による研究成果発表

抄録およびスライドデータのホームページ配信: 2022年2月12日~14日

視聴回数:292回

・全身性エリテマトーデス(SLE)女性患者のリプロダクティブ・ライフにおける QOL と関連要因

飯塚 幸恵(東京女子医科大学)

- ・慢性心不全を有する高齢者の薬剤自己管理ノートの開発 桑原 良子(聖路加国際大学)
- ・重症心身障害児の医療行為に関する親の意思決定における看護実践~ Shared decision making における看護師の役割の考察~

小泉 麗 (昭和大学)

・記憶のゆがみを持つ ICU 患者を早期発見する看護師の察知と実践に関する研究 福田 友秀 (共立女子大学)

\*採択時の所属です。

講演「アクションリサーチ:人々とともに、人々のために」

講師:筒井 真優美 氏(日本赤十字看護大学 名誉教授・客員教授)

(横浜市立大学 医学部看護学科/大学院 特別契約教授)

日時: 2022年2月12日(土)13:00~15:00

開催方法: Zoom ウェビナーによるライブ配信および後日動画配信

プログラム:

13:00~13:10 開会挨拶·会長挨拶

 $13:10 \sim 14:40$  講演:「アクションリサーチ:人々とともに、人々のために」

講師: 筒井 真優美 氏(日本赤十字看護大学 名誉教授・客員教授)

(横浜市立大学 医学部看護学科/大学院 特別 契約教授)

14:40~14:55 質疑応答 14:55~15:00 閉会挨拶

#### 講演の概要

アクションリサーチとは、研究者が現場/フィールドの人々とともに研究に参加する研究であり、現場/フィールドの人たちとともに研究を進めていく「民主的な活動」でもあると同時に学問的成果のみならず社会の変化をもたらす研究であると定義されました。ただ、実施する上では、①改善する時期に達している問題が明らか、②現場/フィールドが研究の実施に耐えうる、③現場/フィールドの共同研究者が熱意を共有している、④研究経験豊かな研究者がいることが必須であると強調されました。具体的な研究事例、そこで起きた成果、起こりやすい困りごとと解決方法なども紹介されました。参加者からのタイムリーなご質問により内容がより深まっていき、理解しやすくなったご講演でした。

当日参加者:117名

動画配信期間: 2022年2月22日~5月22日

視聴回数:342回



#### 〈委員会〉

○メール会議(1)

開催日:4月6日(火)

議題:国際学会発表助成の助成金使途について

○メール会議②

開催日:5月13日(木)

議題:2021年9月第1回研究セミナーの開催方法について

○メール会議③

開催日:5月20日(木)

議題:若手研究者研究助成対象研究について

○メール会議④

開催日:6月4日(金)、6月28日(月)

議題:研究助成事業選考委員会の理事分担について

○第1回研究活動委員会

開催日:7月16日(金)12:00~13:00

開催方法: Zoom を用いた Web 会議

出席者:秋元典子、坂本真理子、島袋香子、武田祐子(五十音順 敬称略)

議題:1. 研究助成事業における対象者の条件について

2. その他

○メール会議⑤

開催日:8月6日(金)

議題:研究セミナーでの理事分担について

○第2回研究活動委員会

開催日:10月8日(金)10:00~11:00

開催方法: Zoom を用いた Web 会議

出席者:秋元典子、坂本真理子、島袋香子、武田祐子(五十音順 敬称略)

議題:研究助成事業に関する検討事項

○第3回研究活動委員会

開催日:1月19日(水)13:00~14:20

開催方法: Zoom を用いた Web 会議

出席者:秋元典子、坂本真理子、島袋香子、武田祐子(五十音順 敬称略)

議題:1. 研究助成募集要項の修正について

2. 選考委員の交代について

3. 2/12の研究セミナーについて

4. 2022 年度研究セミナーについて

#### 4. 今後の課題

- ①会員校における看護学研究者の育成のために適正で公正な研究助成事業を推進するために、日本私立看護系大学協会研究助成事業規程等の整備を行う。
- ②会員校の教職員が参加しやすい研究セミナー等の開催について検討する。

## 一般社団法人日本私立看護系大学協会 研究活動委員会 2021 年度「第1回研究セミナー」アンケート結果

当日参加者: 212 名、動画視聴回数: 518 回 アンケート回答者: 160 名

Zoom を用いたライブ配信

開催日:2021.9.18(土)

動画配信期間: 2021年10月11日~2022年1月11日

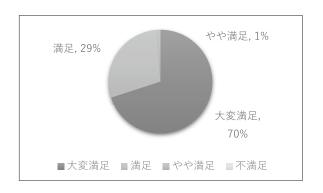
#### 1. 講演内容について

講演「リサーチクエスチョンから研究計画へ」

講師: 坂下 玲子 氏(兵庫県立大学 看護学部 教授)

## 1) 内容について

	人数	割合
大変満足	112人	70%
満足	46 人	29%
やや満足	2 人	1%
不満足	0人	0%
合計	160 人	100%



#### 2) ご意見、感想など

- ・学部の講義に坂下先生の教科書を使わせていただいております。文字だけではニュアンスが捉えられない部分があったので、今回のご講義で理解が進みました。
- ・具体的な例示もしていただき、とてもわかりやすく勉強させていただきました。
- ・これまでに学んだことがある内容でもありますが、改めて坂下先生のわかりやすいご講義をお聞 きし自分の中でさらに整理が進みました。
- ・基本的なことから、わかりやすい事例でよく理解できました。教員経験が浅いので、学生への研究指導の参考にもなり、参加してとてもよかったです。
- ・博士課程に在籍しています。研究計画書が何度かゼロに戻ってしまう中で、手がかりを掴みたく て参加させていただきました。前に進んでみようと思います。
- ・とてもわかりやすく、これまでわかっていたつもりのことに対しても新たな発見もあり、自分の 中に吸収できました。
- ・研究の基礎を丁寧に説明してくださり、分かりやすかったです。
- ・基本に戻ることが大切なことを改めて振り返る時間となりました。独りよがりの研究になっているのではないか、いつも不安に思いながらですが、その不安も研究の原則からぶれないためには大事であることを感じました。いただいた資料に戻りながら、幸せのストーリーが実現できるよう励んでいこうと思います。
- ・リサーチクエスチョンを考えることが苦手ですので、大変参考になりました。
- ・非常にわかりやすかったです。また坂下先生の講演をお聞きしたいです。
- ・自分自身の研究計画に関する内容だけでなく学生への研究指導に関してもご講義いただきとても 勉強になりました。
- ・とてもわかりやすく勉強になりました。
- ・丁寧で具体的な説明で、とても分かりやすかったです。改めて研究実施について考える機会とな

りました。

- ・基本的なことだけど、何度も振り返りたいと思える内容でした。
- ・今現在、研究に行き詰まってるため、今日の講義は自分の研究を見つめ直す良い機会となりました。研究のスタイルを分かりやすく解説していただいたのがとても嬉しかったです。
- ・リサーチクエスチョンから研究計画までのプロセスを分かりやすく教えていただけた。
- ・オンデマンドでの見直し、振り返りの機会がもてると嬉しいです。
- ・分かりやすい言葉で説明していただけて、よかったです。
- ・とても興味深く分かりやすかったです。
- ・質的研究と量的研究に分ける等して、もう少し詳しくお聞きしたいと思いました。
- ・大変わかりやすい内容でした。また質問がしやすかったです。
- ・とてもわかりやすく役に立ちました。現実的に臨床の方たちと研究を進めていく上ではリサーチ クエスチョンの設定が難しいことを実感しています。テキストも授業で使わせていただいています。
- ・現在科研費申請書を作成している。科研費の申請書を作成するときの背景の記述方法は、タイムリーに助言をいただけたのでよかった。
- ・学生へ看護研究の授業をするために、説明・紹介の仕方、例の上げ方や内容など、大変参考になりました。
- ・聞き取りやすく、具体的で分かりやすい内容でした。
- ・とても分かりやすく、今後の看護研究への取り組み、学生指導に役立ちます。
- ・大変分かりやすく、日々の業務に追われて研究が疎かになっていましたが、頑張ろうと思いました。
- ・研究の基本的な知識を確認するよい機会になりました。
- ・具体的な説明があり、参考になりました。
- ・基本的な内容を再度確認できました。授業、実習で精一杯なところがあり、研究に時間を割くことが難しく、研究と聞くと私自身が何か大変なものというイメージを持ってしまっていました。むしろ病院で行っていた時の研究の方が、成果が患者さんのケアに直結することもあり、大変な中でも楽しんで行っていたことを思い出しました。自身の研究に対するイメージを改めたいと本日の講義を聞いて思えたことが一番の収穫でした。
- ・研究の取り掛かり方からお話しいただき分かりやすかったです。
- ・初心者から科研申請書にむけた分かりやすい内容でした。初心に立ち返り頭を整理することができました。
- ・内容を2回くらいに分けてもよいかもしれません。
- ・科研申請のポイントも教えてくださり有難かったです。講義の中で研究事例をお示しくださった ので、他の研究のイメージができやすかったです。
- ・自分自身が研究を進める時のヒントだけでなく、学生をどのように導くのか。そのヒントもたく さんいただけました。
- ・とても分かりやすく、研究することの意義を再確認させていただきました。
- ・とても分かりやすい講演で勉強になりました。
- ・日頃の看護研究の指導について、振り返る機会となり、どのように伝えればわかりやすいのか、 受講生の立場で学習することができました。また自身の看護研究遂行にも役に立つと思います。
- ・研究実践と教育に役立つ内容でした。
- ・具体的で分かりやすかった。
- ・具体的な例が随所にあり、大変イメージしやすく、学生にレクチャーする際の参考となることが 沢山ありました。ただ、本内容は自分が聞くよりも、これから研究者の道に進もうとしている部 下に勧めれば良かった…と思いました。
- ・とても分かりやすい内容で、自分自身や学生指導に生かすことができそうです。
- ・自身が今行っている研究テーマに沿ってお話をうかがうことができました。

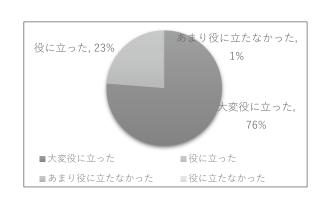
- ・初学者の自分にとても分かりやすい内容でした。少し研究を進めている今だからこそ、理解する ことができたと思います。
- ・学生の看護研究指導に大変参考になりました。最近は、教員に答えを求める学生が大変多くなっていますが、研究者の疑問から研究していく楽しさを、感じてもらえるように指導していきたいと講義を聞いて改めて感じました。
- ・すごくわかりやすく研究の流れを教えていただきました。教員の中でも、あの人は質の人、量の人といった話が出たりします。ミックスメソッドが広く言われるようになっており研究のレベルと研究デザインのページでもあったように、どちらかではなく系統立てて考えた結果としての研究デザインの選択なんだと改めて感じました。
- ・基本的な学びはもちろんだが、コアな重要な部分を再確認できた。
- ・例を提示してもらうことで非常に理解しやすかった。
- ・丁寧なご講義で、とても分かりやすく、自分の研究と照らし合わせながら考えられました。
- ・講演のお話を拝聴し、自分が認識していたことと少し違う部分があることが分かり、研究の目的 や意義を改めて考えた上で、研究に取り組みたいと思いました。
- ・修士生においてリサーチクエスチョンがたてられない。研究計画書が書けないことへの指導に苦慮しているので、今回の焦点を絞ったセミナーはとても良かった。
- ・具体的な内容で理解しやすかったです。
- ・坂下先生の話にありました様に、レビューをしていると自分の考えた事はあれもこれも研究なされていると感じ不安になったり、焦燥感に苛まれます。リサーチクエスチョンを構築することに非常に悩みますが、困りごとから見つける、モデルの解決や改善に繋がるのであればその研究も良いとの話を聞いて安心しました。また研究指導を行う上で、学生は研究を後回しにしがちで、研究の意義の組み立てや研究の手順が頭に入っていかず、悩みどころでした。しっかりと研究の流れ・ストーリーを考えてもらい、まずリサーチクエスチョンという第一段階のゴールを見出すことで研究の意義、興味関心を引き出す事はできるのかなと思いました。後期が始まりますが、しっかりと学びを生かし研究や研究指導に取り組んでいきたいと思います。
- ・看護研究に取り組むことが困難ですが、ゼミナーに参加して、「研究(幸せへ)のストーリーを つくる」という考え方に感銘をうけました。研究の意欲が高まりました。
- ・RQ 設定の実際や研究計画書の作成方法などについてとても分かりやすくご講演でした。深く感謝申し上げます。
- ・「研究(幸せ)のストーリーをつくる」という考え方を心掛けたいと思いました。どうしても、 どんな論文を書くのか?と考えてしまいがちになりますので。
- ・リサーチクエスチョンの説明など非常に分かりやすかった。また、発表者の話を聴き、自分も初心を忘れず研究を楽しもうと思えた。量的研究に関しては残念な説明だったと思う。量的研究に関しては生物統計学や疫学を学んだ方にお願いした方がよかったのではないか。上記を学んだものからすると「研究デザイン」の分類に違和感を感じたし、質問者(横断研究、縦断研究)への回答も残念だった。看護の研究者は学術的背景が異なることが多いので、ご自身の背景を明確にし専門のところのみ話された方が視聴者は混乱しないと思った。
- ・研究計画立案のプロセスがよく理解できました。まずは科研費の申請が間に合うように文献を読み込み、テーマを工夫します。ご講演を拝聴しながら、頭の中がクリアになってきました。職場の中では、研究について語れる文化がほとんどないのが残念です。今後、研究を語り、対話を通して、疑問を絞り込むことができるような環境に変えていきたいと考えました。
- ・リサーチクエスチョンの精錬は、幸せへのストーリーを作ると仰ったのが大変印象的でした。具体例も示されとても分かりやすかったです。
- ・大変わかりやすくご説明いただき、最後まで楽しく参加できました。
- ・基本的なところをわかりやすく丁寧にご講義いただき、学生への指導にも活かせそうです。

- ・頭では理解していても学生に伝えることは難しく感じていたため、具体例を示してのご講演が大変学びになりました。
- ・基本的な内容で、知っている内容も多かったが、意味を掘り下げて説明して頂いたことや、演習的な要素を取り入れて頂いたおかげで、自明であることの根本に立ち返ることができました。
- ・分かりやすい表現や例えが多く理解を深める事ができました。
- ・学部生への研究計画書指導に役立てることができます。
- ・リサーチクエスチョンの焦点化にずっと悩んでおりました。
- ・看護研究の基礎を振り返り、補強できて良かったです。
- ・大変聞きやすいご講義でした。
- ・リサーチクエスチョンを精錬することや研究(幸せへ)のストーリーをつくることなど、研究について分かりやすく説明してくださり、学生指導にも役立つ内容だった。
- ・今後研究を進めていく上で、今一度リサーチクエスチョンを考える機会となりました。またこれまで行ってきた研究方法が先生のご講演の中に出てくる内容と一致していることも多くあり、研究方法として間違いではなかったことが明確になり、今後もこのような方法で行っていけばよいのだということがわかりました。非常に勉強になり、あっという間のセミナーでした。
- ・看護研究の基礎的な進め方を包括的に学ぶことができとてもよいご講義だと思いました。
- ・とてもわかりやすく、学びの多い講演でした。
- ・基本的なことからしっかりと考えていくことが、研究課題をみつけることの近道ではないか、と 考え直し、参加させていただきました。わかりやすく、少し自分がしたいことも見えてきた感じ がします。

### 2. 研修会全体

## 1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	122 人	76%
役に立った	37 人	23%
あまり役に立たなかった	1人	1%
役に立たなかった	0人	0%
合計	160 人	100%



## 2) ご意見、感想など

- ・オンデマンド配信していただけるとありがたいです。
- ・今回の趣旨とは異なるかもしれませんが、研究計画指導方法についての企画があれば助かります。 リサーチクエスチョンの設定も、疑問形にすることから、学生や臨床の方々は苦労されています。 設定しても、PICOPECO に合わせるのも一苦労です。その時に、うまく誘導できなくて苦労す ることも多いです。学部生、院生、臨床での指導、それぞれ研究計画書の立案に関する指導方法 は異なります。基礎知識・既習知識・かけられる時間が異なるためです。そのあたりに迷います。
- ・学生への指導にも役立ちますし、例えが分かりやすかったです。
- ・なかなか日常の業務で研究の基礎を学ぶ機会がないので、とても役にたちました。「研究しよう」、 という前向きな気持ちをもてました。
- ・ZOOM での企画は大変ありがたいです。
- ・学生の看護研究を指導に活かせる内容でもあり、非常に良い企画でした。

- ・学生の研究指導に活かせると思いました。
- ・量的研究、質的研究の具体的な方法を継続的にお願いしたいです。
- ・看護教員として看護研究を行うことの意義をあらためて認識することができました。
- ・何回かシリーズであるといいなと思います。看護研究については何度聞いても勉強になります。
- ・自身はもちろん学生指導に活かせる内容でした。
- ・時期として、もう少し早くてもよいかと思った。理由は、科研の締め切りが早まったためです。
- ・今後もこのような研究に関する研修会を開催していただきたい。
- ・教育と研究を両立していくことの大切さを実感しました。
- ・学生への指導方法に役に立たせることができると思いました。
- ・科研費申請に向けて、もう少し早い時期の方が助かった。
- ・教員として、研究者として非常に勉強になりました。
- ・実務家からの教員として、研究の企画は今後も続けて頂きたいです。
- ・今後もこのような企画を提示いただけると嬉しいです。
- ・今回が初めての参加でした。とても貴重なセミナーでした。
- ・学びの深い時間になりました。事前に資料を頂けたり、オンラインということも参加しやすかったです。
- ・研究を始めるにあたり、何を考えていかないといけないのかについて理解することに繋がりました。
- ・このような研究方法に絞ったセミナーを継続開催してほしい。
- ・基本的な知識を再確認することで、自身の研究の課題を見出すことができました。
- ・学生への卒業論文の研究指導の方法について、企画して頂けると有難いです。
- ・限られた時間で、講演や質疑応答などを上手にまとめて頂いていると思います。
- ・参加者からとても役立つ質問がありました。質問と対応の時間がもう少し取れるとよかったです。
- ・とても分かりやすく現在取り組んでいる研究を進めようと思えました。
- ・盛りだくさんだったので、もう少しテーマをしぼった方がよいと思った。大学の教員は、それぞれ質的研究または量的研究で学位をとっているので、教員向けに企画をするなら今回の内容は当然知っていることとして、次の段階を企画していただけるとありがたい。また、質的研究、量的研究、ミックスなど、研究者によって専門があると思うので、1人の発表者がすべて説明するのではなく、それぞれ専門にされている先生にセミナーをしていただけたら勉強になると思った。
- ・とてもよく企画されていて、スムーズな進行で良かったです。
- ・大学での教育活動の中でも、学生の卒業研究指導が自身の課題でした。本日のご講演は研究活動だけでなく、教育活動にも役立つ内容でした。特に、初めて大学教員になる新任教員にとっては、 今回のような研究の基本を分かりやすく教えていただける機会を頂けると大変有難いです。
- ・看護職にとって必要だけど基本的な考え方と方法が今ひとつ、という痒い所に手が届くような企 画でした。
- ・研究に関する企画は、今後もお願いしたいと思います。
- ・研究の基本の基本を繰返し聞きたい。学生にどのように教えたらよいかも含めて基本的な理解に 繋がる事をお願いしたい。次には研究の実践やまとめ、科研費申請に役立つ方法論が知りたい。
- ・看護研究について復習できました。他の基本的な内容について改めて企画するのも良いと思った。
- ・今回のご講義は概論的な内容だったので、今後は各論的に各研究手法に関する講義があればぜひ 拝見したいと思いました。

## 3. 今後、日本私立看護系大学協会「研究活動委員会」で行う事業について

## 1) テーマ

- 研究デザインの内容について
- ・ 文献レビューの仕方(具体的なところを研修してほしいです)
- ・看護学生への研究の指導方法
- ・私はこれまで国立大学と私立大学の両方に所属してきました。国立大学の先生方は当たり前のように研究をしていました。なので私も大学教員でいる以上研究をすることは必須だと思っています。ですが私立大学に移動すると、職位の上の先生の中には研究をしていない先生がいます。中には科研費申請をしたことがないという先生も何人かいます。びっくりしました。「私立大学」として、その辺り、解決していってほしいなと思います。
- ・科研費獲得のための研究計画
- ・介入研究について
- ・看護教員のキャリアアップに関する内容
- ・科研費申請について、計画書の書き方
- ・量的研究の基礎について
- ・学生が主体的に学ぶ講義方法について
- ・有効な文献検索とレビューの仕方
- ・科研費申請のコツ
- ・研究デザインの具体的な方法論について
- ・臨床の看護研究指導について
- ・ 看護大学教員が研究を進めるにはどうしたらよいか (仕事との兼ね合いなど)
- ・倫理審査に特化した内容
- ・学生への研究の指導方法
- ・RQと研究デザイン
- ・研究計画と研究方法・分析(具体的に示す)
- ・研究指導に関すること
- ・看護研究 (様々な、分析方法について)
- ・看護研究に必要な統計学
- ・看護研究の教授法
- ・同様のテーマ
- ・教育と研究の両立
- ・ワークライフバランスの実践
- ・今回のテーマの続編
- ・学生への研究指導
- ・文献レビューについて
- ・研究に関する各論、実習での教育について
- ・尺度開発の手順を確認したい
- ・RCTの進め方など
- ・分かりやすい論文の書き方、まとめ方など
- ・研究デザインのなかの、それぞれの内容について
- ・修士生の研究力育成のための教育について
- ・合理的配慮(特に学習障害など)がある学生への支援
- ・研究助成の応募方法 採択されるためには・・・
- ・質的研究の種類と概要などについて、演者のご経験や先行研究をもとに解説頂く講演をお聞かせ

頂けると幸いです。

- ・臨床でも取り組める看護研究臨床の方々が研究的視点を養うための研究の在り方について
- ・質的研究および量的研究の実例を示しながらの解説
- ・今後も現場の実践力と研究力が向上するテーマ
- ・学校保健看護学に関するアセスメント技術習得演習
- ・研究フィールドの確保について
- ・看護研究の進め方。まとめ方。申請の仕方。
- ・スコーピングレビューの実際
- ・文献の扱い方
- ・研究法(統計解析の例、現象学的質的研究法など)

## 2) 開催方法

- ·Zoom、オンライン (50件)
- ・遠隔・現地でのハイブリッド(4件)

## 3) 開催時期

- ・長期休暇期間(2件)
- ・いつでも (4件)
- ·前期
- · 後期
- ·科研費申請前(3件)
- ・ 今の時期 (3件)
- · 随時
- ・通年 (オンデマンド)
- ・土・日曜日(5件)
- · 土曜日 (2件)
- ·1月、4月、5月、7月
- · 2月、3月、6月、12月 (2件)
- ·8月~9月 (6件)
- ・参加が難しい事もあるので、動画の閲覧期間を長く設けたり、繰返し開催して頂けると、タイミングを取りやすい。また繰返し聞く事ができれば尚よいかもしれません。
- ・年1回を基本とし、可能であれば年2回開催頂けると有り難いです。

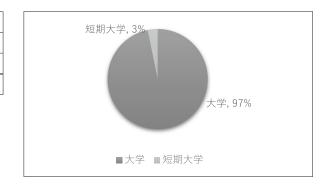
## 4) 場所

- ·Zoom、オンライン (25件)
- ・オンラインと会場のハイブリッド
- ・シミュレーション人形を使用できる環境
- ・東京もしくはオンライン
- ·東京都
- · 大阪駅周辺

## 7. 参加者について

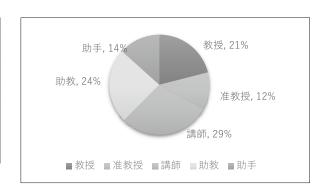
## ①所属

	人数	割合
大学	151 人	97%
短期大学	5人	3%
合計	156 人	100%



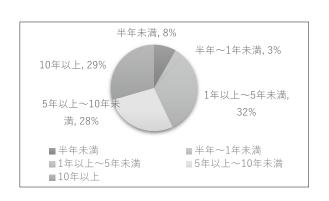
## ②職位

	人数	割合
教授	33 人	21%
准教授	19 人	12%
講師	46 人	29%
助教	38 人	24%
助手	21 人	14%
合計	157 人	100%



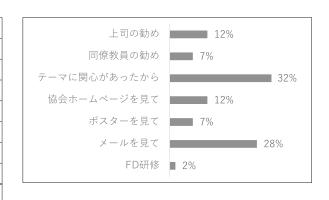
## ③在職期間

	人数	割合
半年未満	13 人	8%
半年~1年未満	5人	3%
1年以上~5年未満	49 人	32%
5年以上~10年未満	43 人	28%
10 年以上	46 人	29%
合計	156 人	100%



## ④参加のきっかけ (複数回答可)

	人数	割合
上司の勧め	26 人	12%
同僚教員の勧め	16 人	7%
テーマに関心があったから	70 人	32%
協会ホームページを見て	26 人	12%
ポスターを見て	16 人	7%
メールを見て	60 人	28%
FD 研修	4人	2%
合計	218 人	100%



## 一般社団法人日本私立看護系大学協会 研究活動委員会 2021 年度「第2回研究セミナー」アンケート結果

当日参加者:117名、動画視聴回数:342回 アンケート回答者:97名

Zoom を用いたライブ配信

開催日:2022.2.12(土)

動画配信期間:2月22日~5月22日

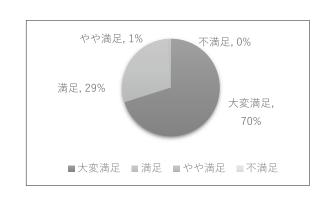
#### 1. 講演内容について

講演「アクションリサーチ:人々とともに、人々のために」

講師: 筒井 真優美 氏(横浜市立大学 医学部看護学科/大学院 特別契約教授 日本赤十字看護大学 名誉教授·客員教授)

## 1) 内容について

	人数	割合
大変満足	68 人	70%
満足	28 人	29%
やや満足	1人	1%
不満足	0人	0%
合計	97 人	100%



#### 2) ご意見、感想など

- ・初心者でもアクションリサーチの特徴がイメージしやすい大変分かりやすい講演でした。
- ・具体的な例が多く、イメージが深まった。
- ・具体的な実践事例を用いてのご説明で大変分かりやすかったです。研究倫理審査委員会や現場の アクションリサーチに関する理解を求めていくことも非常に重要だと感じました。
- ・分かりやすく、良い質問が出ていたのでさらに詳しく学ぶことができた。
- ・筒井先生のご講演が分かりやすくアクションリサーチという手法について理解が深まりました。
- ・今年、アクションリサーチを実施する予定です。筒井先生の書籍を読み、疑問に思っていたこと を解決することができました。
- ・研究に至るまでの入念な準備をイメージすることができました。
- ・分かりやすい事例で説明をいただき、計画のイメージができました。
- ・実践事例を交えて、とても分かりやすいご講演でした。
- ・事例を用いて説明してくださったので理解できた。
- ・実例から説明いただき分かりやすかった。
- ・具体的な研究例を出してお話していただけるので、引きこまれました。
- ・大変勉強になりました。アクションリサーチについて、その概要は勿論、実際にどのように取り 組めばよいのか実践まで、理解することができました。フィールドといかに連携をとるか、調整 することがとても重要であると感じました。
- ・本を読むだけでは難解であった部分が具体例をいただきながらの講演であったので非常に分かり やすかったです。やはりゴールを設定することが大切なことは分かりましたが、やっていく中で のゴールとは違う副産物としての変化などはどのように結果に組み込んでいくのかなどまだまだ 伺いたいことがたくさん出てきました。
- ・とても分かりやすく、また一度アクションリサーチをやってみたいという関心が高まりました。

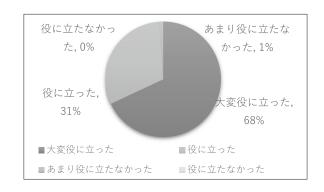
- ・講演を聞くことでさらにアクションリサーチの理解が深まりました。
- ・今回お話いただいた事例は臨床の課題についてのことだったのですが、アクションリサーチという研究方法を用いて学生の課題を解決することが可能なのかどうかが知りたいと思いました。まずはアクションリサーチについての学習を深めていきたいと思います。
- プロセスが理解しやすかったです。
- ・講師の先生のお人柄がとても魅力的でした。アクションリサーチについて現場との交渉などを交 えてわかりやすく説明いただき勉強になりました。実際にアクションリサーチを行っているので、 本日の学びを活かしていきたいと思います。
- ・先生のお人柄がとても明るく、興味深く、そして楽しく聴かせていただきました。
- ・アクションリサーチを実施する場合の倫理審査・研究方法など、具体的な事例で説明をいただい たので、本当に分かりやすく、納得できました。
- ・現場が変化していくことをゴールにする研究は、本当に素晴らしいと実感できました。チャレン ジしたいと思います。
- ・具体的なお話が随所にあり、大変参考になるご講義でした。参考文献を購入させていただきます。
- ・アクションリサーチについて、知っているようで知らなかったので、その概要を理解でき良かっ たです。
- ・これまで「アクションリサーチ」についてはよく分からなかったのですが、分かりやすい研究例を挙げていただき、実際のすすめ方、問題点、注意点など「アクションリサーチ」を行う上での多くの学びを得ることができました。
- ・なぜアクションリサーチが現場に役立つ研究方法か理解できました。ぜひやってみたいと思いました。
- ・短い時間の中で、アクションリサーチについての概要が理解できた。事例などを用いてお話下さったので、分かりやすかった。
- ・具体的な質疑応答により、理解が深まりました。筒井先生のお人柄が表れるような講義で大変良かったと思います。秋元先生の司会も品性高く、良かったと思います。
- ・研究成果が実践を変えていくというところに意義が大きいと思います。論文にするところで分析力が重要であろうと思います。また共同研究者の存在が欠かせないところもフィールドとの日常の交流がないとできないと思う。
- ・アクションリサーチにとって最も大切な考え方について、具体的な方法をご紹介していただきな がらご説明いただき、大変分かりやすく拝聴させていただきました。
- ・具体的な例の提示もあり、とても分かりやすかったです。先生のパッションを感じられて元気もいただきました。
- ・アクションリサーチを用いた研究の倫理審査申請書を作成しています。重要な点について、再確認することができました。現在、コロナ禍にあって、研究フィールドに出向くことが難しくなっており、自身のモチベーションが下がっておりましたが、今一度、頑張ってみようと思えるご講演をいただき感謝申し上げます。
- ・アクションリサーチの本音の部分もお聞き出来て、とてもイメージしやすい内容でした。
- ・難しそうとは思いましたが、研究の例を聞いて、イメージがわきました。
- ・具体的な事例による説明から、アクションリサーチの実際をイメージすることができました。
- ・これまでにもアクションリサーチについての研修を講義形式で受けたことがありましたが、講義 直後に「実施できそう」と思っても、何かわからない疑問が残っていました。本日の講義で、倫 理審査が必要な段階や考えることが具体的に分かり、研究プロセスがとても明確になったので、 疑問が解決してすっきりした自分がいます。
- ・実際の研究を例に具体的に説明していただきましたので、大変分かりやすかったです。アクションリサーチを用いて研究がしたくなりました。

- ・アクションリサーチに興味があり受講しました。様々な研究例をもとに講演して下さりイメージ 化しやすかったです。変化する過程をありありと記述することの重要性、アクションリサーチに おける質的あるいは量的分析方法の選定など学修でき、研究活動に活かしていきたいと思います。
- ・博論でアクションリサーチに取り組みました。現場のスタッフとともに臨床に変化をもたらす、 臨床にとってはとても意義深い研究であったと、先生のご講演を通してあらためて取り組んだこ とを振り返ることができました。
- ・具体例を用いてご説明いただいたので理解しやすかったです。アクションリサーチについての理解を深めることができました。
- ・アクションリサーチの研究半ば、難しさを痛感し、研究者としての立ち位置を見失いそうになっていましたが、先生のご講義を聞き、改めてどこが不十分であったのか、自分の中で少し整理出来ました。フィールドを混乱させないよう、可能な限りこれからでもできることに配慮し、継続していければと思いました。
- ・アクションリサーチについては関心がありましたが、今まで二の足を踏んでいた感じでした。講演の中では、具体例を多く出していただき、大変分かりやすかったです。アクションリサーチを通して、フィールドの課題を解決していくことに携わりたいという気持ちが高まりました。
- ・秋元先生の進行も素晴らしかったです。講義に関しては、私も病棟管理者に迷惑をかけていたため、この研究形態を避けていましたが、再度、計画してみようと思いました。
- ・貴重なご講義を聴講することができ多くの学びを得ました。筒井先生には 10 年前の修士課程在 学中に大変お世話になりました。お変わりないパワフルなお姿、そして引き込まれる講義内容に 圧倒されるとともに、アクションリサーチをやってみようと前向きな気持ちが持てました。フィー ルドと共に実践する研究、今後もチャレンジしていきたいと思いました。
- ・現在アクションリサーチを展開しており、先生の説明がとても役に立ちました。
- ・研究の具体例をもう少しお示し頂ければ、さらに理解が深まったと思います。
- ・アクションリサーチについて概要を知ることができた。研究をサポートされている先生のお話なので、研究手法としてとったことがないセミナー参加者でも、具体例があり理解を深められたと思う。
- ・アクションリサーチによる研究に着手しようとしている所であり、分析方法等、質疑応答も含め、 大変参考になりました。
- ・大学院修士課程の時はアクションリサーチと聞いてもピンとこなかったが、あらためて今日お聞 きして、興味がわいてきました。
- ・具体的で分かりやすかった。
- ・アクションリサーチについて、本は読んだことがありましたが、その実際がよく分かりました。
- ・とても勉強になりました。時間がかかる上に、現場との信頼関係も必要なので、中々取り組む勇気 がないですが、筒井先生のお話は心に響きました。変化を楽しめるように、頑張っていきたいです。
- ・アクションリサーチの実際がわかった。(研究期間、倫理審査、研究協力者など)
- ・筒井先生の体験をもとに、アクションリサーチの計画から報告書の書き方まで具体的に理解を深めることができました。実践の場で"改善"のために継続して行っていることを研究手法を駆使して、結果報告までしっかりと残すことができる手法を知ることは、看護師として大変喜んでおります。
- ・アクションリサーチは時間と他者協力(分担者との双方理解)が必要だと感じた。
- ・ご講演の内容が良く理解できました。とても具体的で、今後取り組むことができるような気持ち になりました。
- ・博士課程在学中に、同期がアクションリサーチで研究を進めていたこともあり、当時を思い出し ながらご講演を聴講させていただきました。例を交えてご説明して下さり、非常に分かりやすく 参考になりました。

## 2. 研修会全体

#### 1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	66 人	68%
役に立った	30人	31%
あまり役に立たなかった	1人	1%
役に立たなかった	0人	0%
合計	97 人	100%



### 2) ご意見、感想など

- ・このような研究についての研修会をこれからもやっていただきたいです。
- ・途中で質問を挟むと、せっかくのお話が中断されてしまい、聞きづらいと思いました。例えば講演を2部形式にして、途中で質問タイムを作っていただくと、聞きやすいと思いました。
- ・実践の質改善に活かせる研究に関する企画はとても参考になりました。
- ・研究方法に関し、今回のようなセミナーを行って頂くと勉強になる。
- ・今度は、具体としてフィールドノートの取り方、分析方法など続編を期待します。
- ・研究は大切なので今回のような企画はありがたいです。研修に参加するだけでも研究へのモチベーションを高めることができます。
- ・筒井先生がとても元気で、聴講していて楽しかったため、パワーをもらえる演者を希望します。
- ・研究の基本を再確認できました。
- ・アクションリサーチについては学べる機会が少ないためとても有意義な企画でした。
- ・坂下先生のご講演も筒井先生のご講演も大変貴重な学びの機会でした。
- ・よかったです。ぜひまたお願いいたします。
- ・今回のアクションリサーチについて、応用編・発展バージョンなどを学びたいです。実際の例を 1つ活用しながら、どのように研究を行うか課題の明確化から課題解決までのプロセスを1つの 研究を題材に学びたいです。
- ・CBPR とアクションリサーチの関係が分からなくなりました。いつかお話しいただけましたら幸いです。
- ・様々な研究方法があるので、筒井先生のように、その手法に長けている方に講義をしていただき たい。
- ・資料の事前配布はありがたかったです。それに伴い、事前質問を受けていただけますと助かります。
- ・時間的にも、また今後の看護の質向上にもタイムリーでした。コロナ禍の峠を越して実施してみ たい。
- ・アクションリサーチはとても貴重だと思っていましたが、難しそうなイメージでした。
- ・オンラインセミナーは会場に足を運ばなくていいので、非常に有益であると思います。多忙な毎 日の中でもセミナーへの参加は希望を貰えます。
- ・書籍だけでは分からない点について講演頂くことで、アクションリサーチの理解が深まりました。 オンラインでしたので参加しやすかったです。
- ・十分な講義時間と有意義な質疑応答でした。自分が持っている研究課題がアクションリサーチに ふさわしい課題か、考える力になりました。
- ・このような研究手法に関する研修会を今後も続けてほしいです。

- ・毎回、研究セミナーを聞かせていただき、新たな知見を得ることができています。今後も継続していただけると助かります。
- ・「アクションリサーチ」という1つのテーマについてのご講演であったため、オンラインでも飽きることなく集中して参加することができました。
- ・アクションリサーチについて知りたいと思っていたので、このような機会を与えてくださり感謝 申し上げます。
- ・筒井先生の実践事例から学ぶことが多かったです。あと 30 分くらいその場のエピソードなどお 聞きできると嬉しかったです。
- ・今回の内容をシリーズ化していただけるとありがたいです。
- ・様々研究方法を学べる貴重な企画です。
- ・話題提供を頂きありがとうございます。在籍する大学で FD はありますがテーマや機会は限られますし、自由意志で参加できる機会や場は、自己学習・自己研鑽につながると思っているので、 今後も参加したいと思っています。
- ・内容的にも時間的にもよかったと思いました。
- ・講師、内容ともとても良かったです。
- ・後日配信いただき、有難かったです。
- ・研究方法の学びになった。Web 配信はありがたい。
- ・アクションリサーチは、社会のための研究手法であることが良く理解できました。今後も、このような研究手法に関する企画をしていただけますと幸甚に存じます。

## 3. 今後、日本私立看護系大学協会「研究活動委員会」で行う事業について

## 1) テーマ

- 研究について
- ・現象学について
- ・質的研究の分析方法について
- ・活動評価に関する研究について
- ・尺度開発の基本について
- ・量的・質的研究法の解説・方法の紹介
- ・アクションリサーチの倫理審査の通し方、データの分析方法
- ・研究方法の具体例・実践例
- ·研究全般
- ・スコーピングの実際
- ・ 臨床現場と大学との協働研究について (どのようにしたらうまくいくのかなど)
- ・内容分析の手法に関するもの
- ・大学教員自身が主任研究者として研究が続けられる環境づくり
- ・今回のような研究方法、また分析手法について
- ・アクションリサーチ、M-GTA
- ・エスノグラフィーについての研究方法
- ・システマティックレビューについて
- ・DX の補助金が 130 校予算でついていますが、今後どのように授業や演習、実習の変化があるのか、 あったのか報告を聞きたい。
- ・混合研究法の考え方と手法について
- ・大学と臨床の共同の実例
- ・研究や実習指導、授業への臨床の方の参加など

- ・今回のように研究手法について
- ・科研費獲得のポイント、計画書の作成ポイント等
- ・実践と研究が直結するような研究方法の実際の紹介
- ・質的研究における現象学的アプローチ
- ・研究手法について理解を深められるようなテーマ
- ・混合研究、エスノグラフィーなど研究手法
- ·研究方法
- ・質的研究における倫理審査の課題(量的研究との差異や特有の用語など)
- ・研究チームつくり
- ・Webアンケート調査
- ・社会福祉に関すること、生活を看る視点
- ・エスノグラフィーを用いた研究について
- ・研究ガイドラインの解説、ガイドライン利用の実際
- ・海外の学会発表に関する抄録作成のポイント等

## 2) 開催方法

- · Zoom、オンライン (37件)
- ・遠隔・現地でのハイブリッド (3件)

## 3) 開催時期

- ・1月(2件)
- · 2月 (8件)
- ・3月(6件)
- ・4月(1件)
- ・5月(1件)
- ・6月 (2件)
- ·7月(1件)
- ・8月 (5件)
- ・9月(2件)
- ・平日の夜
- · 土曜日 (6件)
- · 土日 (3件)
- ·土日祝日
- ・オンラインであればいつでも(2件)

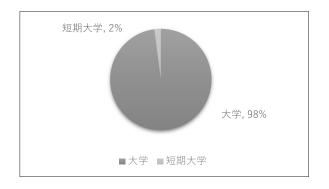
## 4) 場所

- ・オンライン (18件)
- ·地区別開催

## 4. 参加者について

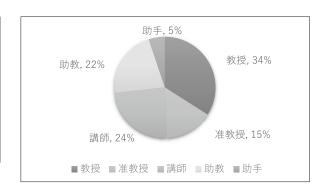
## ①所属

	人数	割合
大学	95 人	98%
短期大学	2人	2%
合計	97 人	100%



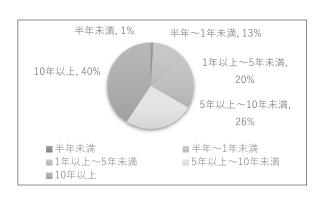
## ②職位

	人数	割合
教授	33 人	34%
准教授	15 人	15%
講師	23 人	24%
助教	21 人	22%
助手	5人	5%
合計	97 人	100%



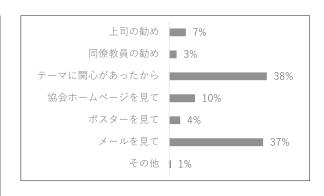
## ③在職期間

	人数	割合
半年未満	1人	1%
半年~1年未満	12 人	13%
1年以上~5年未満	19 人	20%
5年以上~10年未満	25 人	26%
10 年以上	39 人	40%
合計	96 人	100%



## ④参加のきっかけ (複数回答可)

	人数	割合
上司の勧め	9人	7%
同僚教員の勧め	4 人	3%
テーマに関心があったから	53 人	38%
協会ホームページを見て	14 人	10%
ポスターを見て	6人	4%
メールを見て	51 人	37%
その他	1人	1%
合計	138 人	100%



(その他の内容)

現在博士課程でアクションリサーチを行っているため

## 3. 国際交流委員会

#### 1. 趣旨

- ①看護における教育、学術及び文化の国際交流を通して、将来国際的に関連機関との連携協力及 び援助に繋がるための方策の調査研究
- ②看護界の動静と看護学教育の国際交流の現状と将来についての講演会等の実施
- ③上記①、②に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

## 2. 担当理事および委員(○:委員長)

田村 由美(日本赤十字広島看護大学)

○堀内 成子(聖路加国際大学)

(委員)

荒川 満枝 (鳥取看護大学)

長松 康子 (聖路加国際大学)

中村 敦子(日本赤十字広島看護大学)

### 3. 2021 年度事業活動報告

①研修会

研修会テーマ:「看護学教育にいかに SDGs を取り入れるか」

Web ライブ研修会およびビデオ収録日: 令和3年11月5日 (参加者104名)

公開期間: 令和3年11月26日から令和4年2月26日(視聴回数573回)



#### 講演の概要:

講演 1. 「看護を通じて SDGs を考える授業」

高橋 幸子 氏(目白大学 看護学部 准教授)

目白大学では、大学を含む法人全体が 2020 年 7 月に SDGs 取組宣言を行ったことを受けて活動をしており、2021 年度は目白学園「ECO アクション」(環境プロジェクト)企画募集を行い、10 月には大学祭において大学主催で様々な学科の ECO アクション企画・プロジェクトの発表が行われたとのことだった。こういったイベントプロジェクトについては、継続が難しいという側面もある一方で、看護学部では、基本的な活動そのものが保健・医療・福祉に関する活動という点で SDGs への参加を行っていると認識しているということだった。

看護学部のカリキュラムは SDGs の特に「すべての人に健康と福祉を」に関連付けられるため、現行の内容を SDGs にどうつながるかをシラバスに示すという活用が可能と考えられていた。その他「気候変動に具体的な対策を」についても、看護技術を行う際の物品の使用・廃棄に関する意識付けなどが該当し、「質の高い教育をみんなに」については、現在のコロナ禍で、実習を含む教育の質を確保し、OSCE やシミュレーション教育の充実など実際に行っている授業への関心が該当すると指摘された。さらに、「生きがいも経済成長」については、統合看護実習において就職後のリアリティショック防止を図ることやキャリア形成が関連し、「住み続けられるまちづくりを」他についても看護との関連が語られ、教員が意識して教育を行い、病院での取り組みを参考にすることも有用とのことだった。臨地実習での学生との会話でも、患者さんにやさしい看護師であると同時に地球にやさしい看護師でありたいなどとの話が紹介された。

委員より、「総合大学の場合、他学部とのSDGs との協働の状況は?」との質問があり、「看護学部が他学部と離れているため、協働することは元々難しかったが、コロナ禍でのリモート授業の形態を利用して交流が可能となっているため、今後取り入れたい」と回答があった。また今年度は、学部内のFD研修を通して教員間で活用を共有する予定とのことだった。



講演 2. 「ゼミナールを通じて SDGs について考える:1-2 年合同必須科目」 宮澤 純子 氏(城西国際大学 看護学部 学部長)

城西国際大学看護学部では、地域・世界の課題に着目し、主体的に学ぶという目標のために、低学年ゼミナール(プロジェクト教育 a・b)、グローバルヘルス a(1 年次全員海外研修)、世界の中の日本(初年次教育地域・歴史)、地域創造プロジェクト(学部間横断)のような科目設定があるとのことで、そのうち低学年ゼミナール(プロジェクト教育 a・b)は必修の通年科目で、2012 年の開学時より設定されている科目とのことだった。この科目では、1.2 年生が興味を持ったテーマを出して、同様のテーマの者が学年横断で30程度のテーマ毎に集まり、地域との交流を実際に行いながらグローバルな内容にまで発展させるというものであった。講演では実際の学生さんの活動の様子として、ビーチコーミングや高齢者サロンでの健康教育、防災かるた作成、児童養護施設でのドッグセラピーなどの具体的な活動について紹介があった。それぞれの活動が、SDGs にどうつながるのかについて考えられており、いずれも「すべての人に健康と福祉を」を含みながら、様々な GOALs と関連できており、主体的な活動によってSDGs を身近に感じ、自分の生活を振り返ることができているとのことだった。またコロナ禍でも工夫をして取り組んでいたこと、若手教員の新鮮な感性を活かしていること、卒業研究指導のウォーミングアップになっているとのことだった。今後は、SDGs の GOALs の中で達

成状況を考慮した活動ができないか模索したいと語られた。

委員からの「老年看護学や地域看護学などの専門の学習前からこのようなゼミナールを行うことで、実際の専門を学ぶ際にどのような効果があるか?」との質問に対して、「先入観なく学ぶ場になっていること、実際の専門科目でも地域の方・高齢者とのコミュニケーションのハードルが下がっている効果がある、地域のみなさんの良好な受入れ体制ができた状況で専門の実習に入る」との回答だった。また「選択科目ではなく必修科目とすることで、学生の意欲の確保ができている側面がある。」「学生によっては意欲の高さに関して違いもある」等、教育としての仕掛けの方法や苦労が語られた。



講演 3. 「未来から描くケア共創看護学教育―自然・生命・こころ・技の循環―」 村瀬 智子 氏 (日本赤十字豊田看護大学 看護学部 学部長)

SDGs を理解するために、掲げられた17の GOALs は9つの Key Words に集約されると言われている。これについて村瀬氏は理論を進めて、さらにひとつの「循環の滞り」という1つの問題がぞれぞれの面で顕在化されたもので、その解消によって解決可能ではないか、一方、各 GOALs は具体的に考えることで、無限に拡大できるであろうと言及された。つまり各事案をそれぞれの専門家が解決を試みるのではなく、様々な専門家が各問題に通底する理論を構築してそれを元に解決を試みるなど、国際的・学際的な対話や研究の意義と可能性を指摘され、さらに看護学教育においては、国際的視野の醸成にもつながると言及された。講師が実際の看護学教育の場面で実践なさっている「紙面上の9つの点を1本から無限の本数の一筆書きの折れ線でつなぐ」という例題を使った解答の導き方を実演を交えて解説されるとともに、輪ゴムを通したリボンにクリップをつけたものを用意して、リボンを引っ張るという連続したプロセスが想定外の構造を導き出すという実演、また砂山モデルもお示しいただき、授業の中での学生の反応についてもご紹介いただいた。9つの点の問題などは、9つの SDGs の Key Words が1つの問題に集約されるということも連想され、また解答の導き方について、NECTE 理論を用いて解説された。

また病気の発症と病気の治療・看護のアプローチについて、強みや弱みの枠組みや捉え方を変えて、弱みよりも強みを活かすというリフレーミングの考え方が示され、教育についても成功(健康)と失敗(病気)の捉え方について、一元論や二元論を超えて失敗と成功が時間的経過の中で循環するという循環論の考え方を提唱された。

自己と非自己、自然、生命、こころ、技は連続性をもって存在するものであるということを 前提に、看護者が病を持つ人とともに存在し、ケアしケアされる過程で語り合い紡ぎあうダイ ナミックな関係性を共に創造するということを「ケア共創」とされ、未来目標を掲げた上での ものとして「未来から描くケア共創」という看護哲学が語られた。

委員より、「新しい枠組みを学ぶ学生の生き生きとした反応や柔軟な思考を感じることができた」というコメントがあり、「語られた教育実践はどんな科目で行われているのか」との質問に対して、「今回の実践例は、実際は精神看護学や哲学の授業で使っている」とのことだった。「"看護には正解がない"と伝えても学生は実感できないが、実演を交えた教育方法を使うことで、正解がないことを実感し、自分が患者との関わりの中で時間の経過の中で作っていくんだと感じているようだ」とのことであった。



#### 研修参加者からの評価

66 名からの回答があり、助教(17%)・講師(23%)・准教授(29%)・教授(23%)という内訳であった。講演 1・2・3 ともに「大いに役立った、少し役立った」と回答したのは、回答者の90%以上であり、タイムリーな企画であった、SDGs と看護教育との関連を見直す良い機会になった、自分の大学にも取り入れてみたいという声が聞かれ、会員校同士の交流という本企画の意図は達成された。

#### ②委員会

第1回国際交流委員会

開催日時: 2021年5月11日(火)17:00~18:00

開催方法: Zoom を用いた Web 会議 出席者: (理事) 田村由美、堀内成子

(委員) 荒川満枝、長松康子、中村敦子(五十音順 敬称略)

議題:1. 2021 年度事業計画

2. セミナー開催に当たっての業務分担

3. 委員会内の業務分担

4. 今後の予定

第2回国際交流委員会

開催日時: 2021年6月29日(火)16:00~16:40

開催方法: Zoom を用いた Web 会議

出席者:(理事) 堀内成子

(委員) 荒川満枝、長松康子、中村敦子(五十音順 敬称略)

株式会社プランニングウィル 飯塚氏

議題:1. 2021 年度セミナー開催の準備状況

2. 今後の予定

第3回国際交流委員会(メール会議)

開催日:2022年3月2日(水)

議題:2022年度事業計画について

### 4. 今後の課題

昨年度に引き続き、Webセミナーは多くの会員校からの参加者を得ることができた。COVID-19パンデミック発生前にくらべて参加者が多く、また繰り返し視聴できる利点も確認できた。次回研修テーマとして寄せられている声は、国際看護学の取り組み、海外研修の内容、看護教育とジェンダー平等教育、地域生活者の視点を理解する教育など、多岐にわたっている。話題提供は、地域やテーマ等偏ることなくできるだけ多くの会員校から行っていただきたいと企画している。国際交流の現状、課題、障壁、工夫、改革などを忌憚なく検討しながら交流できる場でありたい。

## 一般社団法人日本私立看護系大学協会 国際交流委員会 「看護学教育にいかに SDGs を取り入れるか」アンケート結果

当日参加者: 104 名、動画視聴回数: 573 回 アンケート回答者: 66 名

Zoom を用いたライブ配信

開催日:2021.11.05 (金)

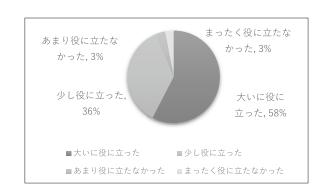
動画配信期間:11月26日~2022年2月26日

1. 講演: 「看護を通じて SDGs を考える授業 |

講師: 高橋 幸子 氏(目白大学看護学部 准教授)

## 1) 内容について

	人数	割合
大変役に立った	38 人	58%
役に立った	24 人	36%
あまり役に立たなかった	2人	3%
役に立たなかった	2人	3%
合計	66 人	100%



#### 2) ご意見、感想など

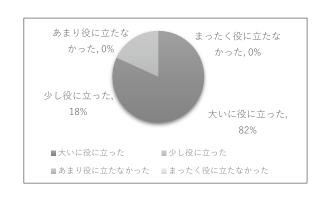
- ・看護そのものが SDGs。 SDGs を少し身近に感じられました。
- ・今実施している看護、シラバスと SDGs を紐づけるというお話が大変学びになりました。さっそく実施してみます。
- ・SDGs に紐づけるポイントが理解できた。
- ・看護学の教育自体が SDGs であるという視点がなく、そうかと納得した。
- ・看護と SDGs は、もともと関連するところが多いという点に共感しました。
- 分かりやすいご講義でした。
- ・継続することの大切さ、既存のシラバスを生かす意義が学べました。

2. 講演:「ゼミナールを通じて SDGs について考える: 1-2 年合同必須科目」

講師: 宮澤 純子 氏(城西国際大学看護学部 学部長)

## 1) 内容について

	人数	割合
大変役に立った	54 人	82%
役に立った	12 人	18%
あまり役に立たなかった	0人	0%
役に立たなかった	0人	0%
合計	66 人	100%



## 2) ご意見、感想など

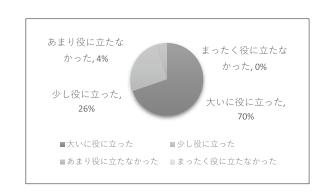
- ・今後の取り組みの参考になりました。少しずつ始めたいと思います。
- ・教育に取り入れている実際を知ることができ、大変参考になりました。
- ・ゼミ活動が素晴らしかった。本学でも取り入れていきたい。
- ・具体的でわかりやすく参考になった。
- ・実例が参考になった。
- ・自分の担当するボランティアに関する科目が、新カリで新しくなるため、内容や方法について、 とても参考になりました。
- ・実践編でとても役立ちます。
- ・モチベーションの維持のためにも、それぞれの取り組みを他へ共有することも必要だと感じました。

# 3. 講演: 「未来から描くケア共創看護学教育―自然・生命・こころ・技の循環―」

講師:村瀬 智子 氏(日本赤十字豊田看護大学看護学部 学部長)

#### 1) 内容について

	人数	割合
大変役に立った	46 人	70%
役に立った	17人	26%
あまり役に立たなかった	3人	4%
役に立たなかった	0人	0%
合計	66 人	100%



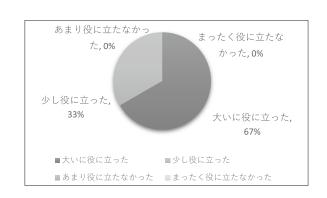
## 2) ご意見、感想など

- ・実演が楽しかったです。
- ・さすが村瀬先生です。お変わりない思考の深さと柔らかさに感激しました。早速本を注文しました。もっと勉強させていただきます。
- ・実演がとてもわかりやすかった。
- ・共創という視点をぜひ取り入れたい。
- ・とても分かりやすいご講義でした。
- ・著書について拝見させていただきます。
- ・良い循環を作るよう常に心掛けたいと思いました。

#### 4. 今回の企画について

#### 1) 内容について

	人数	割合
大変役に立った	44 人	67%
役に立った	22 人	33%
あまり役に立たなかった	0人	0%
役に立たなかった	0人	0%
合計	66 人	100%



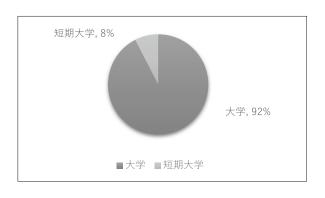
## 2) ご意見、感想など

- ・貴重な機会をいただきました。
- ・自分の授業の中でも実施しているが、他の先生の取り組みを参考にしたい。
- ・国際交流と SDGs の教育を大変身近に感じることができ、具体的な例でお示しくださいましたので分かりやすく有難い機会でした。
- ・改めて気づくことが多く、大変参考になりました。
- ・具体的な取り組みをご紹介いただいたので、本学の国際交流活動でも生かしていけそうです。
- ・自身が MDGs と HIV のことを大学院で学んでいたこともあり大変関心があった。ただ SDGs になってから、看護との関連を深く考えたことがなかったので、反省とともに今後 SDGs を意識して教育に取り入れていきたいと思う。
- ・看護学概論で触れているが、次年度、自身が科目責任者になることもあり、どのようなレベルで に取り入れるか模索している。高校での学修レベルも差があるように思われるため、看護での活 用の可能性について投げかけて持続可能な社会にどう貢献できる、どのような取り組みがあるか 考える機会をどう作るか検討したい。
- ・現状とどう結び付けていくか、そのためには私自身が「SDGs を取り入れる」ことについてもっと深く理解する必要があることを実感しました。
- ・看護教育に取り入れていく必要性について学部全体で考えていきたいと思います。
- ・日々の教育を見直す上での1つの視点となった。
- ・タイムリーなテーマで、非常に参考になりました。自分の科目でも意識して学生に伝えたいと思います。
- ・大学の取り組み、工夫が良く分かった。
- ・タイムリーな企画で、大変役立ちました。
- ・看護と SDGs がどのように結びついていくのか疑問でしたが具体的に、また理論的にお示しいた だきよくわかりました。
- ・今後、このような機会の研修に参加し教育に繋げていきたい。
- ・まずは教員全体が、共通意識を持つようにすることが第一歩だと思いました。

#### 4. 参加者について

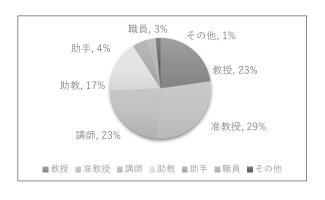
#### 1)所属

	人数	割合
大学	61 人	92%
短期大学	5人	8%
合計	66 人	100%



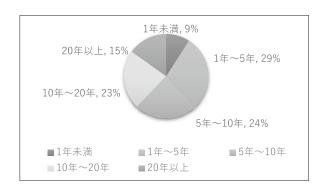
## 2)職位

	人数	割合
教授	15 人	23%
准教授	19人	29%
講師	15 人	23%
助教	11人	17%
助手	3人	4%
職員	2人	3%
その他	1人	1%
合計	66 人	100%



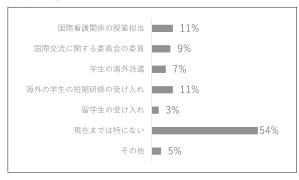
## ③在職期間

	人数	割合
1年未満	6人	9%
1年~5年	19 人	29%
5年~10年	16人	24%
10年~20年	15 人	23%
20 年以上	10人	15%
合計	66 人	100%



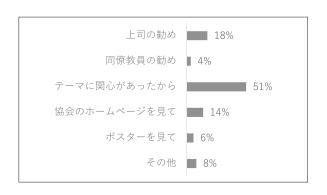
## ④国際看護や国際交流に関しての職務について (複数回答可)

	人数	割合
国際看護関係の授業担当	9人	11%
国際交流に関する委員会の委員	8人	9%
学生の海外派遣	6人	7%
海外の学生の短期研修の受け入れ	9人	11%
留学生の受け入れ	3人	3%
現在までは特にない	45 人	54%
その他	4 人	5%
合計	84 人	100%



## ⑤参加のきっかけ (複数回答可)

	人数	割合
上司の勧め	15 人	18%
同僚教員の勧め	3人	4%
テーマに関心があったから	43 人	51%
協会のホームページを見て	12 人	14%
ポスターを見て	5人	6%
その他	7人	8%
合計	85 人	100%



## 6. 次回の研修テーマの希望について

- ・学生が地域や生活者としての対象者を理解するための看護教育について学べる機会
- ・海外研修の内容
- ・国内における国際看護活動
- ・国際看護学への取り組みについて
- ・海外研修や授業での交流など多くの私立系大学で実施していることの工夫や困難について
- ・今後もオンライン授業を併用しつつ、看護教育を行うために工夫できることについて
- ・看護教育におけるジェンダー平等
- ・発問の仕方

# 4. 大学運営・経営委員会

#### 1. 趣旨

- ①私立看護系大学の振興に必要な国、地方公共団体又は民間からの補助金、寄付金、その他の支援が可能になるような実態調査・分析
- ②大学運営・経営の向上に繋がる事業を展開するための方策の調査研究
- ③上記①、②に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

# 2. 担当理事および委員(○:委員長)

鎌倉 やよい (日本赤十字豊田看護大学)

齋藤 ひろみ (前仙台青葉学院短期大学) (2021年7月31日まで)

諸喜田 美恵(白鳳短期大学)(2021年7月31日から)

長澤 正志 (淑徳大学)

○春山 早苗(自治医科大学)

#### 3. 2021 年度事業活動報告

I. 研修会「大学における質保証」

日時: 令和3年10月25日(月)13:30~16:10

場所: Zoom ウェビナーを用いたライブ配信(動画配信期間 令和3年11月1日~令和4年2

月1日)

参加申込者: 312 名 (教員: 272 名 事務系: 40 名) 参加申込校数: 105 校

当日参加者:175名(教員:139名 事務系:36名)参加校数:81校

動画視聴回数:529回

開催趣旨:

認証評価においては、単に自己点検・評価の充実にとどまらず、PDCA サイクルを機能させて大学教育の質の向上や質の保証を図っていくことが求められてきた。2018 年度からの第3期認証評価においては、内部質保証システムが有効に機能し、学内に定着しているかなど、内部質保証の実質化をより一層重視する評価となっている。

一方、認証評価を受審する大学側からは、内部質保証として求められていることがわかりにくい、大学全体として内部質保証システムを構築し、PDCAサイクルを回していくことが難しいなどの声が聞かれる。

本研修会は、大学における内部質保証及びそのシステムを機能させていくためのポイントや 留意点を理解し、単科大学や総合大学など様々な体制の私立看護系大学が自校に照らし合わせ、 内部質保証を推進していくための示唆を得ることを目的とした。

プログラム:

13:30~13:40 会長挨拶

日本私立看護系大学協会会長 河口 てる子

13:40~14:40 講演1「内部質保証のポイント―大学基準協会大学評価の事例をもとに―」

公益財団法人 大学基準協会 評価研究部 部長 田代 守 氏

14:40~15:40 講演2「東京理科大学の内部質保証について」

東京理科大学 副学長(自己点検・評価担当)渡辺 一之 氏

15:40~16:05 質疑応答

16:05~16:10 閉会挨拶

日本私立看護系大学協会大学運営・経営委員会委員長 春山 早苗

# 〈講演 1〉

田代氏は、大学基準協会の考える内部質保証とは何か、なぜ必要なのか、そして大学基準「解説」に基づく内部質保証の機能、条件、内部質保証システムの検証と改善・向上のポイント、内部質保証の5つの点検・評価項目毎の評価者の観点及び内部質保証の体制面のポイントについて、事例も紹介しながら講演された。

内部質保証は「PDCA サイクル等を適切に機能させることによって、質の向上を図り、教育、学習等が適切な水準にあることを大学自らの責任で説明し証明していく学内の恒常的・継続的プロセス」と定義される。その主な目的は、教育の充実と学習成果の向上であり、「自己点検・評価」は内部質保証の一局面であってイコールではない。

内部質保証の体制面のポイントは、第一に、単に自己点検・評価するためだけではなく、大学として責任をもって教育の企画・設計から、その実施、検証・改善を行っていける体制を持たなければならない。第二に、学部・研究科、学科のPDCA体制・機能を明確にするとともに、学部・研究科等と全学内部質保証推進組織がリンクして、前者から後者への自己点検・評価の結果の報告、後者から前者への運営・支援の組織体系やフローを明確にすることが必要である。 〈講演 2〉

渡辺氏は、東京理科大学の内部質保証システムについて、方針と実施体制、実際の動き、有効性、運用の工夫を講演された。

東京理科大学では、2016 年度から内部質保証の取組を模索し、①「内部質保証の方針及び手続」の設定②「大学全体の内部質保証に責任を負う組織」の整備③ PDCA サイクルの有機的な連動をポイントに、2018 年 12 月に内部質保証システムを導入した。まず、点検・評価に留まらず、組織的な改善活動を運営し、実質化することによって教育研究の質を継続的に向上させるための基盤となる方針を設定した。特に PDCA の C (検証) と A (改善)を強化するために、①必要な組織とその役割・機能②部局による活動の支援の形③活動の整理方法及びPDCA サイクルの実質化を検討した。

当大学の内部質保証システムの強みは、内部質保証推進組織として大学質保証推進委員会と自己点検・評価委員会を置き各役割が明確化されていること、自己点検・評価活動、改善活動を確実に実行し、その結果を検証する仕組みを構築していること、内部質保証推進組織に学外有識者が関与することでその客観性の向上を図り、また外部評価によりシステム全体の検証・評価を実施していること、である。外部評価等に基づき設定した課題は、本システムへの地域社会や産業界の参画、大学独自の定義による学修時間や学修成果の測定指標の導入、点検・評価、改善活動の公表方法の工夫、エビデンスベースによる検証強化のためのIR機能の実質化、長所・特色の認識と伸長である。

運用の工夫として、第一に学内に浸透させるための取組として、研修会や勉強会の開催等を実施している。地道に継続して行うことで少しずつ浸透し、意識も向上する。また認証評価受審がその好機となる。第二に自己点検・評価の精度向上及び効率化のために、概ね3年間で点検・評価項目の全ての「評価の視点」を網羅することとしている。最後に、PDCAサイクルをわかりやすくするために、点検・検証→課題の明確化→改善活動計画→改善内容→推進委員会からのフィードバックの一連を1シートとした、自己点検・評価報告書のフォーマットに改訂したことがある。

#### 〈質問〉

田代氏の講演に対し、学生による参画を制度化し客観性を担保している事例について質問があり、田代氏から学生も入れた全学協議会の実施等、渡辺氏からは学生との定期的な連絡会の実施等について紹介・説明があった。また、内部質保証推進組織の各部局への支援内容について質問があり、田代氏からは1つの学部等での良い取組を他の学部等と共有し横展開できるようにしていくこと、渡辺氏からは自己点検・評価のノウハウや文章の書き方等を細かに伝えていくことが述べられた。第4期認証評価について質問があり、田代氏より、第3期に引き続き内部質保証の有効性を見ていくことは変わらず、また基準4の学生の学習効果の向上をいかに図っていくかということと分離されずに理解しやすい形としていくこと、基準の変更はできるだけ避けること、COVID-19の影響で遠隔教育が推進されている中で、その教育上の措置や学生への配慮等の視点を入れていくことなどが検討されているとの回答があった。

# Ⅱ. 『看護系大学に関する実態調査』の活用に関する調査

日本看護系大学協議会データベース委員会と共同で実施した。

調査目的:実態調査の活用状況や調査への期待を明らかにして、実態調査の結果や収集したデータの効果的な活用方策を検討する。また、活用目的や期待に照らして、効率的に情報を収集し、調査による負担の軽減策も検討する。

調査対象:日本看護系大学協議会と日本私立看護系大学協会会員校 302 校

調查方法:Web調查

調査期間:令和3年9月15日~10月5日

回収数 (率):178 校 (58.9%)

#### Ⅲ. 教員数に関する調査

日本看護系大学協議会データベース委員会と共同で実施した。

調査目的:看護系大学の教員定数あるいは実数が減少していることの問題提起を受け、今後の 対策の資料とする。

調査期間:令和3年10月1日~10月15日

#### IV. 看護系大学に関する実態調査

日本看護系大学協議会データベース委員会と共同で実施した。

調査期間:令和3年10月25日~12月27日

回収数 (率):290 校 (99.3%)

V. 看護系短期大学に関する実態調査

調査期間: 令和3年10月25日~11月29日

対象:会員校である短期大学10校

VI. 委員会

第1回委員会(Zoom会議)

日時: 令和3年5月28日(金)15:00~16:00

議事:1.『看護系大学に関する実態調査』の項目のスリム化について

2. 令和3年度研修会について

第2回委員会(Zoom会議)

日時: 令和4年3月10日(木)18:00~20:00

議事: 令和4年度研修会について

Ⅲ. 日本看護系大学協議会・日本私立看護系大学協会合同調査プロジェクト合同会議

第1回合同会議(Zoom会議)

日時: 令和3年7月11日(日)15:00~17:00

議事:1. 実態調査の設問のスリム化の検討

- 2. データベース化 (ローデータ) の検討
- 3. その他

第2回合同会議(Zoom会議)

日時:令和3年9月24日(金)17:30~18:45

議事:1. 実態調査の設問の年度・年月の検討

- 2. 教員数の削減に関する調査の検討
- 3. その他

第3回合同会議(Zoom会議)

日時: 令和4年1月14日(金)17:30~19:00

議事:1. 実態調査報告書の表示方法について

- 2. Q & A の整合性の確認
- 3. 今後のスケジュールと進め方
- 4. 前年度調査の回答について
- 5. その他

第4回合同会議(Zoom会議)

日時: 令和4年3月28日(月)17:30~19:00

議事:次年度に向けた実態調査の設問の検討について

# 4. 今後の課題

1) 看護系大学の教育等に関する実態調査結果の活用について

2018年度から日本看護系大学協議会と合同調査になった。調査結果から、学費の格差や私立大学では独自の奨学金制度が設けられていることなどが明らかになった。今後の課題は、大学運営・経営の観点から、実態調査の結果や収集したデータの効果的な活用方策を継続して検討することである。

# 2) 研修計画

大学運営・経営強化のために年1回研修会を企画している。今後も、教育の質向上および補助金獲得やガバナンス等の大学運営・経営に資する知見が得られる企画を立案していく。

# 一般社団法人日本私立看護系大学協会 大学運営・経営委員会

「大学における質保証」アンケート結果

当日参加者: 175 名、動画視聴回数: 529 回

アンケート回答者: 115 名

Zoom を用いたライブ配信

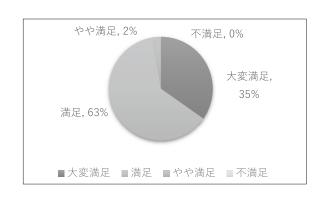
開催日:2021.10.25(月)

動画配信期間:2021年11月1日~2022年2月1日

# 1. 講演「内部質保証のポイント―大学基準協会大学評価の事例をもとに―」 講師:田代 守 氏 (公益財団法人大学基準協会 評価研究部)

#### 1) 内容について

	人数	割合
大変満足	40 人	35%
満足	72 人	63%
やや満足	3 人	2%
不満足	0人	0%
合計	115 人	100%



#### 2) ご意見、感想など

- ・内部質保証の大切さが改めて理解できました。
- ・質疑応答にも丁寧にお答えいただき理解が深まりました。他校の事例も紹介いただき参考になり ました。
- ・わかりやすい資料と説明でした。
- ・単科の大学には、組織的な評価をするには、どのようにしたらよいのか具体的に難しかった。
- ・取り組むべき課題を再確認しました。
- ・評価の基準の動向と、重要な評価基準についての解説が役立ちました。
- ・難しい内容を分かりやすくご説明いただき勉強になりました。
- ・次年度に自己点検を受けるので、参考になりました。
- ・内部質保証の主眼がどこに置かれているのかがよくわかり、何を重点的に取り組めば良いかがよくわかりました。
- ・とても分かりやすく、聞き取りやすく、基本から教えていただけてとてもよかったと思います。
- ・教員個人レベルでの PDCA サイクルとしても活用できると感じた。
- ・内部質保証に関する概念的な視点に加えて具体的かつ方法・評価まで講師の先生方からご講演していただき、とても参考になりました。
- ・内容もわかりやすく、具体的な説明も的確な質問によって確認でき、参考になった。
- ・自己点検・評価と内部質保証との関係を、実に丁寧にわかりやすく解説していただきました。
- ・内部質保証の定義・目的を改めて確認できました。
- ・学習成果の向上を目的としていることが確認できた。
- ・内部質保証について、改めて概要を確認することができ、知識の再構築ができました。このよう な講演を聞くことができ、大変良い機会であったと思います。
- ・内部質保証のポイントをとてもわかりやすくお伝えいただきました。膨大な報告書の作成に際して、改めて「教育の充実と学修成果の向上」に繋がっているかという点を大切に点検したいと再

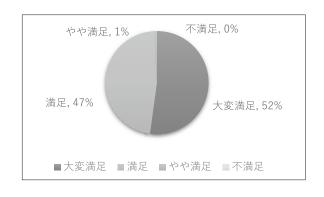
認識することができました。

- ・自己点検評価の基本理念に立ち戻る機会となりました。
- ・まだまだ難解ですが、目的、これまでの取組みと現状、今後の課題等確認できました。
- ・とても分かりやい内容で説明頂き、組織的な動き方が分かりました。
- ・改めて、社会に大学が何を求められているのか、気が引き締まる思いです。
- ・2021 年度におけます推奨すべき自己点検評価シート例の内容もご紹介いただけますと幸いです。 自己を振り返り、学生のための教育内容の振り返りを行い、改善を重ねていきたく思います。
- ・内部質保証の重要性やポイント、また評価する側からの視点、他大学の取り組み等をご教授いた だき、とてもわかりやすい内容でした。
- ・目的意識をもって報告書を作成し、教育改善につなげていけるかを再考する良い機会となりました。
- ・基本的なレベルから勉強したかったので、前半の講義は非常にためになりました。
- ・正直なところ、学部はうまくいっていることをよいことに大学としてというところをよく理解しないで要求にこたえていました。なぜ内部質保証が必要か理解できましたのでさらに前向きに評価したいと思いますし、学部の評価についてもよく考える機会となりました。
- ・基本的なところを押さえることができた。
- ・本年受審し、内部質保証について検討に入るところであったため、非常に参考になりました。
- ・具体例がありとても分かりやすかったです。
- ・第1期認証評価から経験していましたが、効率良く質の高い大学教育を社会に提示するために、 少しずつ発展していることが分かりました。
- ・本学も審査を受けましたが、今までやっていたことが改めて良く理解できました。
- ・本学は外部認証機関は異なりますが、内部質保証の考え方は良く理解できました。
- ・難しくて理解が追い付かないところがありました。

# 2. 講演「東京理科大学の内部質保証について」 講師:渡辺 一之 氏 (東京理科大学 副学長)

#### 1) 内容について

	人数	割合
大変満足	60 人	52%
満足	54 人	47%
やや満足	1人	1%
不満足	0人	0%
合計	115 人	100%



# 2) ご意見、感想など

- ・具体的な事例を用いての説明で大変理解しやすかった。
- ・各組織委員会の役割分担が明確化されていてわかりやすかったです。
- ・具体的な組織化の在り方がよく理解できた。自大学に不足する取り組みに気づくよき機会となった。
- ・勉強になりました。本学に応用し、活かすようにしたいと考えています。
- ・薬学と JABEE に関わるご経験からのお話がとても参考になりました。
- ・内部保証システムの詳細や、時系列での運用の詳細をご説明くださり、大変参考になりました。 年度内で評価を毎年完結していくものと考えていたので、評価基準も3年で1順するように考え

るなど、柔軟かつ教員の負担軽減と報告書の質の向上を兼ね備えたアイデア、とても参考になりました。

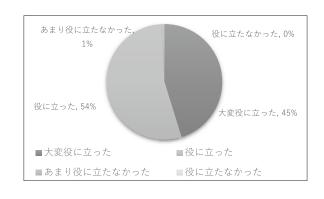
- ・具体例をお示しいただき、大変参考になりました。
- ・本学もこれからの取り組みになりますので実際例が大変役立ちます。
- ・実際のシステムとその運用について理解できた。
- ・具体例をあげて説明していただいたので、とても分かりやすかったです。
- ・事務と教員の役割分担が実質上難しい状況があります。また、文系と理系の学部があるところで は考え方にも違いがあるので、言葉一つ一つの捉え方も異なるように感じています。
- ・東京理科大学の具体例をお示しいただきましたことで、本学の整備すべき課題が見えてまいりま した。
- ・具体的な事例を聞くことができ、イメージすることができました。何をすべきか学べた点がよかったです。
- ・具体的事例をお話しいただき、本学の組織と照らし合わせて考えることができました。
- ・大学としての組織化、委員会の機能などをしっかりご説明いただき、本学の課題などと照合して 考えることができました。分野別評価について触れていただいたことも、看護系大学の状況への 配慮あるメッセージで感謝です。
- ・組織全体で取り組む方法がよくわかりました。
- ・授業アンケートのリフレクションにあまり重きを置いていなかったことを反省した。
- ・とても具体的に説明していただき理解できたように思います。
- ・とても分かりやすいスライドで、理科大の内部質保証の組織体制がよくわかりました。
- ・複数学科を持つ大学での具体的な取り組みをわかりやすく説明して頂き、参考になった。
- ・詳細な事例を紹介していただき、本学ならどのような体制をとるよう応用することが現実的かを 考える糸口を提供していただきました。
- ・自己点検・評価報告書のフォーマットが参考になりました。
- ・事例を交えてポイントなどを説明して頂き理解が浸透しました。
- ・内部質保証のための全学的な組織運営の方法についてヒントをもらえた。
- ・内部質保証に関する、取り組みについて、貴重なお話を聞くことができました。本学の今後の内 部質保証の取り組みの参考とさせていただきたいと思います。
- ・多くの示唆に富む具体的な取り組みを教えていただき感謝です。
- ・内部質保証の方針を組織が効率的に展開しているモデルは大変参考になります。
- ・とても丁寧で賢明な取り組みについて、教職員へも配慮しながら取り組まれている様子が分かり ました。
- ・実際どのようにしてシステムを構築していったのかが良くわかりました。
- ・きめ細やかで丁寧に効率性も考え、組織での取り組みが良く考えられていると思いました。
- ・とても具体的で分かりやすいご講演でした。内部の継続的・協働的体制の構築とリーダーシップ の重要性、また職員一人ひとりの意識変革の必要性を感じました。
- ・実際の取り組みについて知ることができてよかったです。すでに確立されている内部質保証の体制を見て、遅れながら動き出したばかりの自分たちの大学の内部質保証のための運営や支援の参考にさせていただこうと思いました。
- ・具体的に踏み込んだ内容を聴かせていただき、何の目的に行うのかを少し広い視点で、また、少 し具体的な視点で考えることができました。
- ・成功例として具体的に参考にできたので良かったです。
- ・大変具体的にお示しいただきましたので、自学と比較しながら理解が深まりました。システム図 は自学と比較しながら活用させて頂きます。
- ・具体的な方法がわかった。

- ・組織の構築、各々のマネジメント方法について参加になりました。
- ・全学の内部質保証ならびに分野別評価の担当をしているため、大変役に立ちました。学生参加の話が出ましたが、大学での学生の自治活動やクラブ活動は縮小し、学生は「帰宅部」と揶揄される状態でバイトにいそしんでおります。特に私立大看護学生は、素直かつ勤勉であり、大学の運営にもの申す学生は絶滅種のようです。学生の声を取り入れることは非常に大切と思い、対話は欠かしてはいけないと考えています。立命館大学はもともと学生自治会等が強く、組織風土もあってのことと思いますので、医療系学部にすぐになじむかについては疑問符はあります。しかし、医療専門職のヒエラルキーでは学生は最下層であり、往々にして学生を子ども扱いします。内部質保証で、学生をステークホルダーと捉え、そのチカラを引き出していくことは、看護および医療の発展に必要なことかと思いました。
- ・自己点検評価に長所と特色の認識と伸長を提言されていたことです。既に限界まで努力されての 結果として、授業評価が好ましくない場合もありますので、短所ばかりに焦点を当てると、教職 員のやる気そのものが萎えてしまいます。そこで、長所・特色を意識した評価がされると、その 部分をさらに伸ばす取り組みへと繋がりやすく、その中で短所が消えていく可能性も高いと思い ました。
- ・図表など満載の構成内容であり、具体的でわかりやすく大変に参考になるお話でした。
- ・内容自体が不満足ということではなく、本学にはあまり参考にならなかった。大規模大学における「あるべき姿」の内部質保証システムは理解できたが、小規模大学でこの考え方をいかに咀嚼し簡潔化してシステムを構築するかが知りたかった。一例として内部質保証推進組織と部局のメンバーは重ならないように工夫されているが、小規模大学では重複を避けることは難しいため、そのための工夫等。
- ・認証評価に対するイメージが変わりました、義務感だけではなく、自らの大学の特性を発揮できる機会でもあることを学ばせていただきました。

# 3. 研修会全体

# 1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	52 人	45%
役に立った	62 人	54%
あまり役に立たなかった	1人	1%
役に立たなかった	0人	0%
合計	115 人	100%



# 2) ご意見、感想など

- ・内容から前期に企画してほしかった。
- ・今後も、このような企画をしていただくとありがたいです。
- ・教員になったばかりでわからないことが分かっていない状態だったので、とても勉強になりました。
- ・大学として進むべき方向性は理解できますが、現実的な教育・研究を本業としながら、内部質保証を図っていく工夫点を複数の大学事例を伺いたい。
- ・このようなタイムリーな企画をまたお願いいたします。
- ・小規模大学の実践例についての講演もあると良かった。

- ・大学運営には欠かせない内容ですが、なかなか私学であることを前提に学べる機会がなく、このような研修はとてもありがたいです。
- ・今後も最新の動向から必要なセミナーの企画開催を希望いたします。
- ・組織としてのお話でしたが、各教員の授業の振り返りと改善も、質保証の基礎として重要である と感じました。
- ・次のステップかと思いますが、分野別評価の受審に係る内容をもっと知りたいというのが最も大きなニーズになります。
- ・何事においても組織の協働的雰囲気や民主的運営というリーダーシップは大切だと感じた。
- ・再来年の認証評価が決定したところだったため、本学での具体的な取り組み、対策が明確になった。
- ・たいへん意義のある素晴らしい企画でした。看護に特化していなかったため、他分野の教職員も 理解しやすかったと思います。本テーマの場合、看護に特化すると、それを模倣して終わりにな る可能性もありますので、部局、全体というお話があったように、まずは本会に参加した者(と うに看護を専門とする者)が中心になって、自大学に適した方法を検討し、推進していく形が望 ましいと感じました。
- ・大変時期を得た企画と思います。
- ・他大学の内部質保証の取り組みについて、具体的な事例を聞くことができて、大変参考になりま した。
- ・教員は運営や教育の質の保証について、基本をもっと学習する必要があると感じた。
- ・先進的な取り組みを知る機会を希望します。
- ・大学の運営や各部署の関連性が関わっていないと理解が難しいのではないかと感じました。
- ・本学においても大学における質保証を考えており、タイムリーな研修内容でした。大変興味深く 参加することができました。
- ・今回の企画、大学として大いに役立つ企画で大変良かったと思います。
- ・大学としての体制は構築されているものの、学部・学科においては、その場しのぎの評価をして しまっているように思い、改めて内部質保証に示される大学の社会的責任について考え、自らを 律していきたいと思います。
- ・田代先生より、基準協会から全般的な内部質保証のポイントをわかりやすく説明いただき、渡辺 先生からは、具体的に東京理科大学様の取り組みを説明いただき、大きな枠組みを理解してから、 細部の取り組みをご教授いただける形で、とてもわかりやすい研修会でした。
- ・本日の研修会は大変勉強になりました。小規模の大学の事例なども参考になるところがありましたらご紹介いただければ、より具体的に質を如何に保証していくかの勉強になるので、今後も機会をお願いしたいところです。
- ・次年度に受審を控えていますので、大変参考になりました。
- ・今回は東京理科大という大きな大学の例でしたが、単科の小さな大学の例もお聞きしてみたいで す。
- ・今回のような時期を得たテーマは実益と重なり非常に重要でした。
- ・内部質保証システムに関する小規模大学の事例を知りたい。

4. 今後、「大学運営・経営委員会」で行う事業について希望するテーマ、開催方法、開催時期、場所など

## ①希望するテーマ

- ·SD に関する研修
- ・ハラスメント、障害学生支援、実習評価など
- ・大学や学部のマネジメント力の育成に関する内容
- ・ウィズコロナのオンライン授業の今後の方向性や在り方
- ・組織の活性化と協働をもたらすリーダーシップ
- ・受験生減少、学生の質の低下や多様化、学生の経済困窮が、将来ではなく目前の課題となったため、あらためて今後の対策や考え方など、具体的な大学の取り組みも含めて、研修会を企画して頂けると参考になります。
- ・学生の学習成果を充実させる取り組み
- ・具体的教育方法・スキル等について
- ・人件費削減等の大学の方針が変化する中での、教員配置や雇用人数に関する考え方
- ・精神的な問題やハラスメントへの対応
- ・私立の看護系大学の学部の少ない中での部局や全学組織の在り方、組織構成等について
- ・シミュレーション教育や遠隔を取り入れた教育方法について
- ・看護系大学の増加と少子化に関連して、学力の低下等の教育面の課題や実習施設の確保が難しい など、実習面の課題など取り上げて頂ければと思います。
- ・複数学部、特に文系と医療系を要する大学の学部間交流をどのようにして教育効果を上げている かについて
- 教学マネジメント

#### ②開催方法

- ·Zoom、オンライン(16件)
- ·Web と現地開催のハイブリット
- ・対面可能であればグループワーク形式

#### ③開催時期

- ・今回と同様(3件)
- 後期
- ・平日昼休み
- ·Web であれば時期はいつでもいい
- ・週末か平日の17時以降
- ・時期は問わない
- ・土曜日
- ・8月~9月(夏季休暇中)

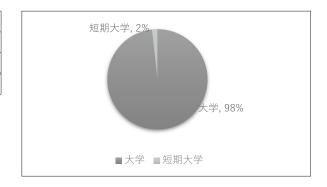
#### 4開催場所

- ・オンライン(8件)
- ・会場とオンラインのハイブリッド型(2件)
- ・対面でも Web でもいい
- ・2 か所、例えば大阪と東京など

# 5. 参加者について

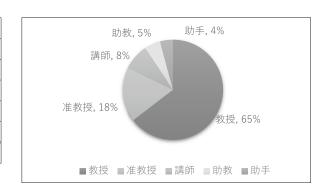
# ①所属

	人数	割合
大学	112人	98%
短期大学	2人	2%
合計	114人	100%



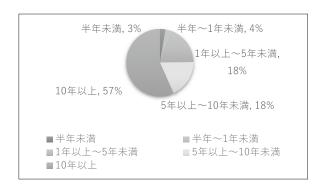
# ②職位

	人数	割合
教授	62 人	65%
准教授	17人	18%
講師	8人	8%
助教	5人	5%
助手	4 人	4%
合計	96 人	100%



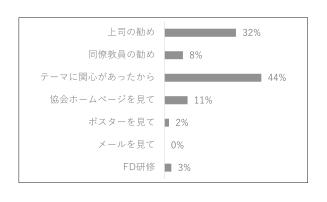
# ③在職期間

	人数	割合
半年未満	3人	3%
半年~1年未満	4 人	4%
1年以上~5年未満	21 人	18%
5年以上~10年未満	21 人	18%
10 年以上	64 人	57%
合計	113 人	100%



# ④参加のきっかけ (複数回答可)

	人数	割合
上司の勧め	31 人	32%
同僚教員の勧め	8人	8%
テーマに関心があったから	42 人	44%
協会ホームページを見て	10人	11%
ポスターを見て	2人	2%
メールを見て	0人	0%
FD 研修	3人	3%
合計	96 人	100%



# 5. 渉外委員会

# 1. 趣旨

- ①本法人の発展のため外部の組織に働きかけ、看護教育並びに看護専門職としての充実・発展に 必要な国の制度や法令、文教行政や予算、高大連携についての確かな情報収集と分析・整理
- ②文部科学省、厚生労働省関係、日本学術会議をはじめ、日本看護系大学協議会、日本私立大学協会、日本私立学校振興・共済事業団、中央教育審議会、大学設置・学校法人審議会等諸機関の活動状況の把握をし、必要な提携・協力及び支援活動を企画・実施
- ③啓発活動のためのセミナーの実施
- ④上記①~③に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

# 2. 担当理事および委員(○:委員長)

河口 てる子 (日本赤十字北海道看護大学)

島袋 香子(北里大学)

長澤 正志 (淑徳大学)

○山本 あい子 (四天王寺大学)

# 3. 2021 年度事業活動報告

I. Nursing Now キャンペーンへの参画

#### 【実行委員会】

開催日時: 2021年6月23日(水)10:00~11:30

開催方法: Zoom による Web 会議

# 議題:

- 1. 2021年「看護の日」トークイベント Nursing Now キャンペーン総括に関する実施報告
- 2. Nursing Now キャンペーン 最終イベント「グローバルフットプリント」: 西太平洋 地域に関する参加報告
- 3. Nursing Now キャンペーン報告書骨子案について
- 4. その他
  - 1) Nursing Now キャンペーン最終報告書 (Agents of Change: the story of the Nursing Now campaign) の公表について
  - 2) 今後のスケジュール (Nursing Now キャンペーン終了および Nursing Now チャレンジについて、日本看護学会 交流集会企画案について)

### ○報告書提出

協会としてのキャンペーンでの取り組みと Nursing Now ニッポン宣言を受けての展望について報告書を提出した。

Ⅱ. 高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会

# 【委員会】

○第1回

開催日時:2021年5月13日(木)9:00~10:55

開催方法: Zoom による Web 会議

議題:

- 1. JANPU-NP 教育課程に関するアンケート結果について
  - 1) NP の定義について
  - ① JANPU-NP の定義
  - ② NP 協議会の定義
  - 2) 医師の働き方改革の推進に関する検討会
- 3) 今後の JANPU-NP について
- 4) APN グランドデザインについて
- ○第2回

開催日時:2021年7月12日(月)9:00~10:15

開催方法: Zoom による Web 会議

議題:

- 1. 山本代表理事の委員会出席について
- 2. 今年度の活動方針について(JANPU 重点事業として)
  - 1) 高度実践看護師教育課程について
  - 2) APN グランドデザインの構築に向けて(山本代表理事)
  - 3) 今後の委員会活動に向けて
- 3. 作業委員会の提案
- 4. 作業部会を進めていくにあたって
- JANPU-NP の活動実績について
   沖縄県立看護大学の修了生との Zoom ミーティング (7月19日12:00~14:00)

#### ○第3回

開催日時: 2021年11月15日(月)9:30~11:00

開催方法: Zoom による Web 会議

#### 議題:

- 1. 各部会報告 (CNS 部会, NP 部会報告)
- 2. 今後の方針について

日本版コンセンサスモデル(案) および APN グランドデザイン(案) について

# ○第4回

開催日時: 2022年2月21日(月)15:30~16:50

開催方法: Zoom による Web 会議

#### 議題:

1. 各部会報告 (CNS 部会, NP 部会報告)

- 2. 今後の方針について 日本版コンセンサスモデル(案) および APN グランドデザイン(案) について
- 3. その他
- Ⅲ. 2021 年度自民党厚生労働部会 看護問題小委員会への要望書提出

日本看護協会、日本看護連盟を通じて、2021年8月31日開催の看護問題小委員会への参加 案内があった。2022年度政府の概算請求の報告に対し、看護の問題について要望提案し、 看護政策や国家予算について議論する場であり、看護政策の実現に向けて、本協会として要 望書を提出した。

# (要望書概要)

- 1. 看護教育の質保証に向けた教育環境の充実のための予算措置
  - 1)教育機関ならびに実習施設を含めたICTの活用体制整備
  - 2) シミュレーション機器等の充実・整備
  - 3) 全看護系大学が使用可能な教材プラットフォームの構築にむけた予算措置
  - 4) 看護教員の雇用と病院における教育要員の配置に伴う予算措置

## Ⅳ. 教育学術新聞への掲載

- 1. 私立大学協会が発行する教育学術新聞に令和 4 年私学関係者「新年名刺交換」広告に河口 てる子会長の名刺を掲載した。
- 2. 同新聞の企画「看護系学部の新たな臨地実習の工夫と展望」の執筆依頼があり、河口てる 子会長と会員校 3 校(聖隷クリストファー大学、藤田医科大学、東京医科大学)により、 連載した。
- V. 日本看護図書館協会創立 30 周年記念機関紙「看護と情報」29 号への寄稿 河口てる子会長が、「学術の開花・成長と並走する看護図書館」と題し寄稿した。
- Ⅵ. 令和3年度看護師国家試験についての受験状況調査

新型コロナ感染症のパンデミック下の令和3年度看護師国家試験の受験状況について、実態を把握するための調査を日本看護系大学協議会、日本看護学校協議会と協同し実施した。期間は2022年2月14日から18日。結果は3団体で共有し今後の国家試験のあり方を検討する際の資料とする。なお、調査結果によっては、厚生労働省への要望を検討する。

## Ⅲ. 声明等の周知

看護職を含む人々と国際社会の連帯に資するため、国際看護協会、ヨーロッパ看護師協会連合、各国看護師・助産師協会欧州フォーラム等の声明等を周知した。

#### 4. 今後の課題

①文部科学省、厚生労働省、日本学術会議をはじめ、日本看護系大学協議会、日本私立大学協会、

日本私立大学連盟、日本私立学校振興・共済事業団、中央教育審議会、大学設置・学校法人審議会等諸機関の活動状況の把握をし、現状への認識及び今後の方針について理事会に報告する。

- ②関係機関と関係を深め、情報交換、意見交換するとともに、連携・支援に向けた働きかけをしていく。
- ③看護の問題、看護政策の実現に向けて、政府、所轄省庁等へ要望書を提出する。
- ④日本看護系大学協議会と高度実践看護師のグランドデザイン委員会への参画を継続する。
- ⑤新型コロナウイルス感染症禍における会員校の抱える問題について関係諸団体と協働し実態把握に努め、文部科学省、厚生労働省等関係省庁と情報を共有し検討する。

# 6. 広報委員会

# 1. 趣旨

- ①本法人の目的の達成に寄与するため会報及びその他刊行物の発行
- ②会員校への情報伝達及び会員校間の情報交換
- ③本法人の活動の外部への PR のためのホームページの企画運営
- ④上記①~③に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告
- 2. 担当理事および委員(○:委員長)

濱中 喜代 (岩手保健医療大学)

三国 久美(北海道医療大学)

○守田 美奈子(日本赤十字看護大学)

## 3. 2021 年度事業活動報告

- 1) 会報の発刊
- (1) 会報第45号を2021年5月に発刊
  - ① 2020 年度事業活動報告
  - ②会員校の特色のある取り組みの紹介
  - ③理事会報告
  - ④事務局からのお知らせ
- (2) 会報第46号を2021年11月に発刊
  - ①会長挨拶
  - ②新規会員校紹介
  - ③会員校の特色のある取り組みの紹介
  - ④ 2021 年度研究助成事業の採択者及び論文抄録
  - ⑤社員総会・理事会報告
  - ⑥役員一覧
  - (7)事務局からのお知らせ

〈会報46号:例年との変更点〉

2021年度も新型コロナウイルス感染症対策として、社員総会付帯事業の講演会が中止となったため、講演会記事の代わりに、昨年度のシミュレーション教育に関する研修会での事例紹介を掲載した。

# (3) 編集

原稿の依頼や原稿の受取は原則メールで行った。

# (4) 配布部数

会員校:1校50部 関係団体:約120部

# 2) 年次報告書の発刊

2020年度年次報告書を2021年7月初旬に発刊し、会員校に配布した。

#### 3) ホームページの検討

4月より運用を始めた新ホームページについて、委託業者からの報告を受け、改善に努め、適 官更新した。

#### 4) 動画の提供

ホームページのトップ画面の動画を、各大学のオープンキャンパス等で活用できるように DVD 化し、会員校に配布した。

#### 5) 委員会の開催

○第1回広報委員会

開催日時: 2021年4月23日(金)11:30~12:20

開催方法: Zoom を用いた Web 会議

参加者:濱中喜代、三国久美、守田美奈子(五十音順 敬称略)

コーディア (株) 荻島氏、中井氏

議題:1. ホームページについて

2. 会報第46号について

3. 今後のスケジュール

#### ○第2回広報委員会

開催日時:2021年6月17日(木)

開催方法:メール会議

参加者:濱中喜代、三国久美、守田美奈子(五十音順 敬称略) 議題:ホームページトップページに掲載予定の動画について

#### ○第3回広報委員会

開催日時:2021年7月16日(金)16:00~17:30

開催方法: Zoom を用いた Web 会議

参加者:濱中喜代、三国久美、守田美奈子(五十音順 敬称略)

コーディア (株) 荻島氏、中井氏

議題:1. トップページの動画について

2. ホームページ運営について

# 3. 会報 46 号について

### ○第4回広報委員会

開催日時: 2021年10月11日(月)12:30~14:00

開催方法: Zoom を用いた Web 会議

参加者:濱中喜代、三国久美、守田美奈子(五十音順 敬称略)

コーディア (株) 荻島氏、中井氏 議題:ホームページ運営について

#### ○第5回広報委員会

開催日時:2022年1月28日(金)14:30~16:00

開催方法: Zoom を用いた Web 会議

参加者:濱中喜代、三国久美、守田美奈子(五十音順 敬称略)

コーディア (株) 荻島氏、中井氏

議題:1. 会報第47号について

2. ホームページについて

#### 4. 今後の課題

- ・2021 年 4 月にリニューアルした HP の運用に関して、制作業者から定期的に、HP の活用状況 等や利用頻度の高いコンテンツ等の報告を受けている。この報告により HP の充実を図ること が可能となっているので、今後も会員、一般の方等が活用しやすい HP を目指して更新を継続 していく。
- ・年2回の会報の発刊など広報活動の更なる充実を図る。

# 7. 2021 年度特別事業 シミュレーション教育教材開発プロジェクト

# 【シミュレーション教育教材開発プロジェクトメンバー】

- ・プロジェクト長 阿部 幸恵 (東京医科大学)
- · 小児看護学担当 加藤 令子(関西医科大学)
- ·基礎看護学担当 川西 美佐(日本赤十字広島看護大学)
- ·成人看護学(急性期)担当 川原 千香子(愛知医科大学)
- ·在宅看護学担当 正野 逸子(西九州大学)
- ·在宅看護学担当 野元 由美(産業医科大学)
- ・精神看護学担当 藤野 ユリ子(福岡女学院看護大学)
- ·成人看護学(慢性期)、老年看護学担当 森岡 広美(関西医療大学)
- ·母性看護学担当 若井 和子(川崎医療福祉大学)

# 【日本私立看護系大学協会 大学教育委員会担当理事】

- · 片田 範子(関西医科大学)○委員長
- ・佐藤 みつ子 (了徳寺大学)
- · 中嶋 恵美子(福岡大学)
- ·波川 京子 (川崎医療福祉大学)

(敬称略・五十音順、所属は 2022.3.31 時点)

日本私立看護系大学協会では、良質なシミュレーション教育教材の開発を 2021 年度定時社員総会時に決定しました。以前からシミュレーション教育を先進的に取り入れている研究者たちが質の良い全領域の教材を開発し、会員校へ提供する 2021 年度特別事業「シミュレーション教育教材開発」プロジェクトを実施しました。このプロジェクトに参加された研究者たちは、短期間に全力をもって活動され、その成果を会員校へ提供することができました。